

## 凡 例

一、「上演年表」は、令和元年九月文楽公演に際して刊行された「上演資料集」に掲載されたものです。

一、「上演年表」は、初演より現在に至る迄の、おもに人形浄瑠璃本公演を網羅することを主旨としています。本公演以外の上演も可能な限り掲載します。

○「上演年表」における外題・場割等の表記は、上演時の番付・筋書に忠実なるを旨としています。

従って『義太夫年表―近世篇』一～三下・別巻〈補訂篇〉、『義太夫年表―明治篇』、『義太夫年表―昭和篇』一～四、『文楽興行記録昭和篇』（高木浩志調、昭和2年～38年3月）に番付が完全翻刻されているもの、及び、当劇場に番付・筋書が所蔵されている公演については、一部の誤植訂正を除いて、全てそれらの表記に従いました。ただし、番付・筋書等で確認できない公演については、欄外に△印を付し、出典の表記をそのまま踏襲して後考にゆだねました。各『義太夫年表』の欄外の注記から取材した配役には、\*を付しました。出典の破損等により確認できない部分については、文字単位は□で表し、連続する部分は「不可知」と表記しました。なお、劇場の所在地については、それが大阪の場合は、表記を割愛しました。

○使用した記号は次の通りです。

／は役を複数で交替した場合を示します。／は数種の組合せによる交替を示します。Ⅱは太夫と三味線の組合せを示します。・は太夫の掛合または三味線のツレ弾きを示します。―は掛合における太夫の役名との対応を、+は複数の役を勤めたことを示します。

○太夫の表記の際「―太夫」「―大夫」の文字は省略しました。

○人形役割の欄には、主要な役のみその遣い手の名を記しました。また、その興行が人形入りであつて、役割が不明のものについては（不明）と記しました。

一、「上演年表」の漢字・仮名の表記については、原文を尊重しつつ読み易さを考慮して、次のとおり処置しました。漢字は特別な場合を除き現行の字体に改めました。仮名については引用箇所以外は現代仮名遣いとしました。また明らかに誤植と思われる箇所、及び現在使われない漢字表記等は適宜修正しました。加えて、「――太夫」「――大  
夫」の表記については、現在の表記にかかわらず原文のとおりとしました。

# 「艷容女舞衣」上演年表

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一七七二	安永1	12/26～	豊竹座	艷容女舞衣	上の巻(口加、奥武、切ノ口伊三、中岡、奥町)、中の巻(口氏、切ノ口町、詰岡)、下の巻(口加、切ノ口源、詰島)。 ※角書「美濃や三勝／あかねや半七」。 ※京都大学図書館蔵・大阪府立中之島図書館蔵、鱗形屋孫兵衛・阿波屋平七版七行正本に拠る。 ※『外題年鑑 安永版』に「茜屋半七／みや三勝 艷容女舞衣 明和九年辰年十二月廿六日 岡太夫出座」。『浄瑠璃大系図』には「豊竹岡太夫 同(安永) 弍年癸巳十二月廿六日より東の芝居へ出勤して艶容女舞衣三かつ六つ目の大当りして…」とあるが、年次の誤りであろう。 ※絵尽の「山の口の段」に「此所引道具」とある。	(不明)
一七七三 ～ 一七七四	安永2 ～ 安永3		江戸 外記座	(艷容女舞衣)	※『義太夫執心録』に「佐渡太夫 中の芝居が初舞台目見へ浄留り艶容切大出来／」とあるに拠る。	
一七八二 ～ 一七八三	天明2 ～ 天明3		江戸 土佐座	(艷容女舞衣)	※『義太夫執心録』に「川内太夫高松屋松之助……土佐座の目見へ、金兵衛家太夫座元にて、はで姿縁切場、第一声から美しく、女の見物嬉しがり素人請の大評判」とあるに拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八〇八	文化5	9/27~	御霊社内芝居	艷容女舞衣 上下	新町ばしの段(口芳、おく重、長まちのだん(口千賀、切巴)、十日戎の段(秀、上しほ町のだん(口中、切綱)、心中のだん(宮戸))。	三かち(金吾、半七(三吾)、半兵へ(文吾、半七は、(重三郎)、おその(新吾、宗がん(三吾))。
一八一五	文化12	8/17~19	京六角堂境内芝居	三勝	長町の段(口美代、切弥)。 ※「初日より三日目迄」(番付)。	三かつ(三吾、半七(新吾))。
一八一六	文化13	5/3~	稲荷境内	艷容女舞衣	今宮戎のだん(口富、おく筆、半七内のだん(口十七、切綱))。 ※角書「みのや三かつ/茜屋半七」。	三かつ(東造、半七(新二)、半兵へ(千四)、半兵へ女房(重三郎)、おその(辰造)、宗かん(九孝))。
一八一六	文化13	閏8/8~	名古屋清寿院御境内	艷容女舞衣	今宮の段(梶)、酒屋の段(むら、綱)。 ※角書「三勝/半七」。	三かつ(才治)、はん七(兵吉、勘兵衛(文吾)、勘兵へ女房(朝七)、おその(伝七)、宗がん(重五郎))。

「艷容女舞衣」(上演年表)

一八二六	文政9	1/2~	いなり社内	艷容婦舞衣 上下	新町の段(入)、長町の段(口染、切湊、十日戎の段(阿蘇、酒やのだん(口文字、切綱)。 ※角書「みのや三かつ／あかねや半七」。	三かつ(辰五郎)、半七(仙助)、半兵へ(熊造)、半七母(寅象)、おその(千四)、そうかん(源十郎)。
一八三四	天保5	9/27~	稲荷境内	艷容女舞衣	十日戎の段(鳥)、酒屋の段(口巴勢、切むら)。 ※角書「三かつ／半七」。	三かつ(門三)、半七(清七)、半兵へ(金四)、半兵へ女房(東十郎)、おその(辰五良)、宗かん(門蔵)。
一八三九	天保10	9	ほり江市ノ側 芝居	艷容女舞衣	馬場先酒やのだん(口多満、切組)。 ※角書「かさや三かつ／赤根半七」。	三かつ(八蝶)、半七(寅造)、半兵衛(二京)、半兵へ女ぼう(咲造)、おその(新吾)、宗岸(清十郎)。
一八三九	天保10	10	ほり江市ノ側 芝居	艷容女舞衣	馬場先酒やのだん(口多満、切組)。 ※角書「かさや三かつ／赤根半七」。 ※前項と一連の興行と思われるが、番付の月が異なる。	三かつ(八蝶)、半七(寅造)、半兵衛(二京)、半兵へ女ぼう(咲造)、おその(新吾)、宗岸(清十郎)。
一八四三	天保14	9	道頓堀竹田芝居	艷容女舞衣	酒屋のだん(口多満、切江戸靱)。	三かつ(文吾)、半七(金吾)、半兵へ(門十郎)、半兵へ女房(文吾)、おその(国八)、宗かん(門蔵)。
一八四四	天保15	1	兵庫 兵庫	女舞衣	酒やのだん(口多満、切靱)。 ※角書「三かつ／半七」。	三かつ(国造)、半七(国三郎)、半兵へ(文吾)、は、(歌六)、おその(清十郎)、宗かん(門蔵)。

「艶容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八四九	嘉永2	1/9～	西横堀清水町 浜	(艶容女舞衣)	長町のだん(田喜Ⅱ菊松)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※「緑り浄瑠璃」の内。 ※番付の日付は「正月吉日」であるが『染太夫一代記』によつて改めた。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。	三かつ(国三郎)、半七(兵吉)、半兵へ(文五郎)、半兵へ(女房(辰之助)、おその(弥三郎)、宗がん(喜十郎))。
一八四九	嘉永2	1	堺 堺新地南芝居	艶容女舞衣	酒屋のだん(浦、生駒)。	
一八四九	嘉永2	閏4/8～	京 左女牛北側芝居	三 勝	酒や(筆の)。 ※素浄瑠璃。	
一八五〇	嘉永3	1/3～	西横堀御池ば し	(艶容女舞衣)	酒屋(五)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※「緑浄留里」の内。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八五〇	嘉永3	10ヵ/13	丹後田辺付近 願藏寺	(艶容女舞衣)	酒屋(豊隆)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八五〇	嘉永3	11/14～	堺 さかい新地南 芝居	三 勝	さかやの段(菊寿)。 ※子供浄瑠璃興行。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△			△	△	△	△	△
		一八五二	一八五一	一八五一	一八五一	一八五一	一八五一
		嘉永5	嘉永4	嘉永4	嘉永4	嘉永4	嘉永4
	5/21	5/17~18	5/16	7頃	7頃	7頃	7頃
			上町鐘屋町大 ろうじ席	江戸 猿若町結城座	江戸 さや 丁	江戸 扇 屋	江戸 木 場
				(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)
			三 か つ				
			※「女舞剣紅楓」の可能性もある。 (長子カ)。	酒屋のたん(燕子  米太郎)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※「まい日かはり」とあるが二日目以後の演目は未詳。 ※『弥太夫日記』に拠る。	酒屋のたん(登乃)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	酒屋のたん(理)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	酒屋のたん(理)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『弥太夫日記』に拠る。

「艶容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八五九	安政6	1	京 四条南側大芝居	三 か つ	酒やノ段(生駒  清吉)。	
一八五九	安政6	1	法善寺丑若小屋	艶容女舞衣	酒やのだん(口絹  とん平、切生駒  清吉)。 ※角書「三勝/半七」。	
一八五七	安政4	11 上旬~	名古屋 若宮	(艶容女舞衣)	酒屋の段(此母  直吉)。 ※角書「三かつ/半七」。	
一八五五	安政2	10	道頓堀竹田芝居	艶容女舞衣	酒屋の段(三国、生駒)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※別番付には「口竹本三国太夫、切豊竹生駒太夫」とある。	三かつ(与十郎)、半七(小才)、半兵へ(徳三郎)、ば(福之助)、おその(冠十郎)、宗がん(音五郎)。
一八五五	安政2	2/2~	京 寺町とら薬師寺内	(艶容女舞衣)	酒や(山登  源平)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※「かげ絵」浄瑠璃。	
一八五二	嘉永5	10/20	法善寺	(艶容女舞衣)	酒屋(小鞆  清六)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
一八五二	嘉永5	10/9	法善寺	三 か つ	酒屋(長子)。 ※『弥太夫日記』に拠る。	
		5/22~24		前頁から続き (長子カ)。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。 ※『弥太夫日記』に拠る。		

△ △



「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△		△		
一八六四	文久4	1/16	泉州 深日	(艷容女舞衣)	酒屋(米)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※『弥太夫日記』に抛る。	
一八六二	文久2	11	兵庫 兵庫定芝居	艷姿女舞衣	酒やの段(口咲の、切生駒)。 ※角書「三勝／半七」。	三かつ(冠三郎)、半七(小玉)、半兵へ(辰十郎)、半兵へ女房(玉丸)、おその(兵花)、宗かん(門造)。
一八六二	文久2	11	堺 新地南芝居	艷姿女舞衣	酒やの段(口咲野、切生駒)。 ※角書「三勝／半七」。	三かつ(冠三郎)、半七(小玉)、半兵へ(辰十郎)、半兵へ女房(玉丸)、おその(兵花)、宗かん(門造)。
一八六二	文久2	閏8	京 寺町和泉式部 境内	艷容女舞衣	酒やノたん(口流、切生駒)。 ※角書「三勝／半七」。	三かつ(冠三郎)、半七(辰助)、半兵へ(辰十郎)、半兵へ女房(玉丸)、おその(兵花)、宗閑(門造)。
一八六〇	万延1	6/19	淡州 佐野	(艷容女舞衣)	酒や(栄Ⅱ清治)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※『弥太夫日記』に抛る。	
一八五九	安政6	10	京 寺町道場北新 小家	女舞衣 中の巻	三かつ／半七酒屋の段(口緑り、切蟻)。	
一八五九	安政6	9/18	紀州 道成寺門前小 家	三かつ	(筆太)。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。 ※『弥太夫日記』に抛る。	

「艶容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八六四	元治1	3頃	広島カ	(艶容女舞衣)	酒屋のたん(勢見  玉助)。 ※角書「三かつ/半七」。	
一八六四	元治1	12/3~	京 四条北側大芝居	(艶容女舞衣)	酒やノ段(殿母  清二)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※素浄瑠璃。	
一八六六	慶応2	3/23~	京 四条道場北ノ小家	(艶容女舞衣)	酒や(津  小熊)。 ※角書「三勝/半七」。	
一八六六	慶応2	9/9~	京 四条道場北ノ小家	三勝	酒やノ段(殿母  亀助)。	
一八六七	慶応3	2/22~	京 四条道場北ノ小家	艶容女舞衣	酒やのたん(春戸  常吉、生駒  歌女造・琴弥子)。	
一八六七	慶応3	5/5~	京 四条道場北ノ小家	(艶容女舞衣)	酒やノ段(此母  由松)。 ※角書「三勝/半七」。	
一八六七	慶応3	6中旬~	名古屋 清寿院御境内	女舞衣	酒屋のたん(蟻)。 ※人形役割の「親宗願」を「宗がん」と表記する別番付もある。	舞子三かつ(清治)、半七(清七)、半兵衛(才治)、半兵へ女房(才九)、おその(清十郎)、親宗願(金四)。

一八六八	慶応4	1/2~	京 四条北側大芝居	(艶容女舞衣)	酒や(春戸  常吉)。 ※角書「三勝/半七」。	
一八六八	慶応4	8/28~	京 四条道場北ノ 小家	三 勝	酒や之段(須磨  虎次郎)。 ※「外題一日替リニ相勤申候」(番付)。	
一八六八	明治1	12/6~	京都 四条北側芝居	(艶容女舞衣)	酒や(咲賀  大八)。 ※角書「三勝/半七」。	
一八六九	明治2	8	御霊芝居	艶容女舞衣	酒屋のだん(口国、切靱)。 ※角書「三かつ/半七」。	三かつ(小辰)、半七(徳三郎)、半兵へ(光造)、三かつばゞ(卯の助、おその(小兵改文三)、宗がん(東十郎)。
一八六九	明治2	12/10~	京都 北側大芝居	(艶容女舞衣)	酒や(織)。 ※角書「三かつ/半七」。	
一八六九	明治2	12	兵庫 いなり文らく 芝居	葉手姿女舞衣 艶容女舞衣	※『義太夫年表 明治篇』欄外記事に拠る。 酒屋のだん(中弥、切古靱)。 ※角書「みのや三かつ/あかねや半七」。 ※「九月廿七日ヨリ卅五日間」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※「二日目(廿八日)古靱大夫急病ニ付き、酒屋ノ段切場、弥大夫代役、千秋楽マデ好評」(『義太夫年表 明治篇』)。 ※「番附ノ右欄外ニ初メテ文楽芝居ト記ス」(『義太夫年表 明治篇』)。	みのや三かつ(玉之助)、茜や半七(小兵吉)、茜や半兵衛(玉造)、おその(辰造)、親宗岸(喜十郎)。
一八七一	明治4	9				

「艶容女舞衣」(上演年表)

△

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八七二	明治5	3	天神芝居跡新 席	(艶容女舞衣)	酒や。 ※太夫 竹本山四郎。 ※『早稲田大学演劇博物館所蔵 特別資料目録10 千葉胤男(辻町)文庫 古浄瑠璃・義太夫節篇』に拠る。	
一八七三	明治6	1/5~	京都 道場芝居	艶姿女舞衣	酒や之段(織登、織  団六)。 ※角書「三勝/半七」。	
一八七三	明治6	5	堀江新席	(艶容女舞衣)	酒屋の段(琴  竜糸)。 ※角書「三勝/半七」。	
一八七四	明治7	4	道頓堀竹田芝 居	艶客女舞衣	酒屋のだん(中津、切古靱)。 ※角書「三かつ/半七」。	三かつ(新三郎)、酒や半兵へ(光造)、半兵へ女房(為十郎)、女房おその(喜十郎)、宗眼(金四)。
一八七四	明治7	12	堺 宿院芝居	艶客女舞衣	酒やのだん(中津、切古靱)。 ※角書「三勝/半七」。	三かつ(新三郎)、茜や半七(兵枝)、酒や半兵へ(千次郎)、酒や半兵へ女房(勢造)、女房おその(辰造)、宗がん(光造)。
一八七五	明治8	5	名古屋 亀の家座	三 勝	酒や(君  時造)。 ※『浄瑠璃大寄』の内。	
一八七五	明治8	7/1~	名古屋 亀の家座	(艶容女舞衣)	酒やノ段(織の  宗十郎)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『浄瑠璃大寄』の内。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

一八八〇	明治13	2/1~	京都 せいくわし本 堂まへ	艷容女舞衣	酒屋ノ段(君  時造)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※浄瑠璃身振。	
一八七九	明治12	10	ばくろ町いな り北門定小家	艷容女舞衣	酒やのだん(宮、綱)。 ※角書「三勝／半七」。	みのや三かつ(喜市)、あかね や半七(光栄事、栄蔵)、茜や 半兵へ(光造)、酒やは(喜十 郎)、女房おその(才治)、宗 がん(金四)。
一八七七	明治10	3/18~	座摩裏門新席	(艷容女舞衣)	酒屋の段(若  豊造)。 ※角書「三勝／半七」。 ※浄瑠璃糸操り。	
一八七七	明治10	2/13~	弁天座	三勝半七	酒屋(古靱)。 ※「過し日の／其年月も／めぐり来て 連營手向の薫樹 礼拝三度」 の内。故人太鼓卯之助追善。 ※初日は役割番付欄外の墨書に拠る。	
一八七六	明治9	6	御霊裏門席	三勝半七	酒屋の段(小組  仙治郎)。 ※素浄瑠璃。	
一八七五	明治8	11	竹田芝居	(艷容女舞衣)	酒屋(小浜  音次郎)。 ※素浄瑠璃。	
一八七五	明治8	7	名古屋 橋座	(艷容女舞衣)	酒屋(十三  広勝)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※太夫 豊竹古靱太夫。	
一八七五	明治8	7	名古屋 橋座	(艷容女舞衣)	酒屋のだん(古靱  清六)。 ※角書「三勝／半七」。 ※太夫 豊竹古靱太夫。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八八二	明治15	9	名古屋 真本座	女舞衣	酒屋の段(綱代Ⅱ市十郎)。 ※角書「三勝／半七」。 ※浄瑠璃身振。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八八四	明治17	11/24~	彦六座	艷容女舞衣	酒屋の段(中雛、切住)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※十一月廿五日ヨリ十二月十八日マデ(『千賀女日記』)。 ※『義太夫年表 明治篇』欄外記事(豊沢団平妻、千賀女日記)には「団平持役、盛衰記三段目柳適太夫、酒屋大隅」とある。	三勝(喜市)、あかねや半七(玉松)、酒や半兵へ(兵吉)、半兵へ女房(小三)、おその(才治)、宗岸(三吾)。
一八八五	明治18	4/17	京都 南側劇場	(艷容女舞衣)	酒屋の段(住Ⅱ勝七)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※彦六座。	
一八八七	明治20	7/30 7/24	名古屋 千歳座	(艷容女舞衣)	酒屋の段(住Ⅱ勝七)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※酒屋の段(朝Ⅱ仙治郎)。 ※竹本住太夫・柳適太夫一座。	
一八八八	明治21	1/29	京都 南側劇場	三勝半七	酒屋の段(綾Ⅱ小重)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一八八八	明治21	1/29	名古屋 末広座	三かつ半七	酒屋の段(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八八八	明治21	7/27	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋場(綾Ⅱ勝鳳)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△	△	△
一八九〇	一八九〇	一八九〇	一八九〇	一八九〇	一八九〇	一八八九	一八八九	一八八九
明治23	明治23	明治23	明治23	明治23	明治22	明治22	明治22	明治22
12/2	5/8	4/24	3/21	2/19	12/18	8/18	8/6	1/26
千歳座 名古屋	京都 北側劇場	千歳座 名古屋	京都 南劇場	千歳座 名古屋	千歳座 名古屋	京都 北側演劇場	京都 北側演劇場	京都 北の劇場
三勝半七	三勝半七	三勝半七	三勝半七	三勝半七	三勝半七	三勝半七	三勝半七	三勝半七
酒屋の段(朝)。	酒屋段(綾)。 ※大坂文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋の段(朝)広作)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋の段(朝)広作)。 ※大坂彦六座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋の段(朝)。 ※大阪彦六座、朝太夫・広作一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋の段(越路)広助)。 ※竹本越路太夫・豊沢広介一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋の段(綾)勝鳳)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋の段(越路)広助)。 酒屋の段(越路)勝鳳)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋の段(越路)吉兵衛)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一八九一	明治24	12/7	名古屋末広座	三勝半七 前頁から続き	酒屋の段(七五三)。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八九一	明治24	1/11	京都北座	達姿女舞衣	酒屋(越路Ⅱ広助)。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一八九一	明治24	1/25	京都道場座	女舞衣艶姿	酒屋(高尾Ⅱ才吉)。 ※竹本津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一八九一	明治24	8/4	京都北座	女舞衣艶姿	酒屋(越路Ⅱ広助)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一八九一	明治24	8/17	京都北座	女舞衣艶姿	酒屋(越路Ⅱ広助)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一八九一	明治24	10	御霊文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(中谷、切越路)。 ※角書『美のや三かつ／阿かねや半七』。 ※『十月一日ヨリ十一月三日マデ廿二(卅一)日間』(『義太夫年表 明治篇』)。	美のや三かつ(卯三郎)、茜や半七(金之助)、茜や半兵衛(玉助)、半兵衛女房(玉亀)、おその(玉造)、親宗岸(玉治)。
一八九二	明治25	7/26	名古屋千歳座	三勝半七	酒屋の段(小隅Ⅱ宗太郎)。	



「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△		△		△	
一八九三	明治26	一八九二	明治25	一八九二	明治25	一八九二	明治25
8/10	8/2	11	8/15	8/14	8/18	8/13	7/31 7/30
末 広 座	名古屋 座	彦 六 座	千 歳 座	北 京 都 座	笑 福 座	名古屋 座	
	三勝半七	艷容女舞衣	三勝半七	(艷容女舞衣)	三勝半七	三かつ半七	三かつ半七
酒屋の段(高尾  安次郎)。 ※竹本越路太夫・豊沢広助一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋の段(越路  広助)。	酒屋のだん(中芳、切越)。 ※角書「三勝/半七」。	※竹本朝太夫・豊竹新朝太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 ※竹本越路太夫・豊沢広助・其外文楽一座。素浄瑠璃。 三勝/半七酒屋の段(越路  広助)。	酒屋(相生)。 ※相生太夫・久太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(高尾)。	酒屋(高尾  安次郎)。 酒屋の段(越  吉弥)。 ※文楽・彦六両座合併。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
		三かつ(紋之助)、半七(榮三)、半兵衛(光造)、女房(三吾)、嫁お園(亀松)、宗岸(門造)。					

「艶容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△	△
西暦	一八九三	一八九三	一八九三	一八九三	一八九三	一八九三	一八九三
年	明治26	明治27	明治27	明治26	明治26	明治26	明治26
月	8/18	2/14	2/1	10/16	10/15	10/11	7/14
劇場	京都南座	京都南座	京都南座	名古屋千歳座	音羽座	名古屋音羽座	名古屋新守座
上演外題	三勝半七	三勝半七	(艶容女舞衣)	三勝半七		三勝半七	三勝半七
場割・備考	酒屋(越路Ⅱ広助)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(菅)。 ※彦六一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(越路)。 ※角書「三勝／半七」。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(伊達)。 ※大隅太夫・豊沢団平一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(橋Ⅱ宗七)。 ※竹沢弥七一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋の段(殿母Ⅱ芳三郎)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋の段(綾Ⅱ勝七)。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
主な人形役割							

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	一八九六	明治29	2/4	2/1	名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋の段(菅  森助)。 酒屋(越  小団治)。	
△	一八九五	明治28	8/10		名古屋 千歳座	三勝半七	酒屋(高尾  花助)。 ※大坂文楽、豊竹呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九五	明治28	6/29		東京 新声館	三勝半七	酒屋の段(綾瀬  豊吉)。 ※義太夫大演芸会第1回。 ※演芸資料選書・5『東京の人形浄瑠璃』に拠る。	
△	一八九五	明治28	6/18~		稲荷座	艷容女舞衣	酒屋のだん(口雛、切越  *吉弥、道行(角・一))。 ※角書「三かつ/半七」。 ※『本興行限り七代吉弥・吉子退座』(『義太夫年表 明治篇』)。	三勝(簗助)、酒や半七(栄三)、半兵エ(駒十郎)、半兵へ女房(松江)、女房おその(玉米)、宗岸(清十郎)。
△	一八九四	明治27	12/20		京都 南座	(艷容女舞衣)	酒や(浪友)。 ※角書「三勝/半七」。 ※呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九四	明治27	10/1~		御霊文楽座	艷容女舞衣	酒屋のだん(中綾、切越路)。 ※『十月一日ヨリ十一月六日マデ卅五日間』(『義太夫年表 明治篇』)。	三かつ(卯三郎)、茜屋半七(金之助)、親半兵衛(玉治)、半兵衛女房(亀松)、女房おその(玉造)、宗岸(玉助)。
△	一八九四	明治27	7/25		名古屋 宝生座	三勝半七	酒屋(綾)。 ※綾太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△			
西暦	一八九六	一八九六	一八九六	一八九六	一八九六	
年	明治29	明治29	明治29	明治29	明治29	
月	12/18	8/4	7/28	2/16	2/15	2/12
劇場	名古屋 千歳座	名古屋 末広座	京都 南座	名古屋 千歳座	名古屋 千歳座	
上演外題	三勝半七	三勝半七	三勝半七	三勝半七	三勝半七	前頁から続き
場割・備考	酒屋(伊達Ⅱ友松)。 ※竹本越太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋の段(伊達Ⅱ友松)。 ※大隅太夫・団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(越路Ⅱ広助)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『本日は節季に付き一日休み明日より引続き興行し、越路太夫は『先代萩』御殿場を語り、又持病の為め両三日欠勤し居りし広助も同日より出勤する由』(『日出新聞』7月31日)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(越)。 ※竹本越太夫。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒や(綾登)。 ※竹本越太夫・七五三太夫・新靱太夫・菅太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
主な人形役割						

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	一八九七	明治30	7/27	京都 南座	三勝 半七	酒屋の段(越路  広助)。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	7/17	名古屋 宝生座	三勝 半七	酒屋(伊達  友松)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	7/9	名古屋 千歳座	三勝 半七	酒屋(朝  松太郎)。 ※竹本組太夫・朝太夫・住太夫・伊達太夫合併大一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	4/13	名古屋 音羽座	三勝 半七	酒屋の段(小綱)。 ※愛知浄瑠璃因社による「浄瑠璃大会」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	3/16	名古屋 音羽座	三勝 半七	酒屋(綾  大七)。 ※前項の二の替り。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	一八九七	明治30	3/6	名古屋 音羽座	三勝 半七	酒屋(相生  大造)。 ※竹本相生太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
	一八九七	明治30	1		艷容女舞衣	上塩町酒屋のだん(中路、切越路)。 ※「一月二ヨリ三月十二日迄四十二(四十)日間(二月十三日英照皇太后薨去ニツキ二月八日迄休ミ)」(『義太夫年表 明治篇』)。  三かつ(紋之助)、半七(助太郎)、親半兵衛(玉治)、半兵衛女房(玉五郎)、女房おその(紋十郎)、舅宗岸(玉造)。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△		△	△	
一八九八	一八九八	一八九八	一八九八	一八九八	一八九八	一八九七
明治31	明治31	明治31		明治31	明治31	明治30
8/25	8/22	8/10	8/7	5/8	2	11/28
弁天座	御園座 名古屋	京都 南座		宝生座 名古屋	稲荷座	京都 南座
三勝半七	三勝半七	三勝		三勝半七	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)
※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。 ※稲荷座連中。素浄瑠璃。 酒屋(春子)。	※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※大阪文楽座。素浄瑠璃。 酒屋(文字)猿糸。	※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 高尾太夫等の一座。素浄瑠璃。 酒屋(高尾)。 ※竹本文字太夫(佐野太夫改め)・竹本文太夫・竹本七五三太夫・竹本		※路太夫・山城太夫・鶴尾太夫・三味線 団六・大三郎・卯三郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 酒屋(文字)。	※角書「美濃や三勝/茜屋半七」。 上塩町酒屋のどん(伊達)・*友松、此所人形出つかひにて御覧に入申候。 酒屋(路)団六。	※竹本さの太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 酒屋の段(さの)。 ※角書「三勝/半七」。
						場割・備考
						主な人形役割
					美濃や三勝(三十郎)、茜屋半七(鶴松)、茜屋半兵(胸十郎)、茜屋ばゞ(玉子)、嫁おその(清十郎)、宗岸(玉松)。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△	△	△	△		△
	一八九九	一八九九	一八九九	一八九九	一八九八	一八九八	一八九八
	明治32	明治32	明治32	明治32	明治31	明治31	明治31
7/20	7/19	4/25	3/9	1/15	12/19	12/15	9/6
	京都 南座	名古屋 西栄座	名古屋 末広座	京都 南座		名古屋 御園座	中劇場
(艷容女舞衣)	三 か つ	三 勝 半 七	三 勝 半 七	三 勝 半 七		三 勝 半 七	三 勝 半 七
酒屋の段(越路  吉兵衛)。 ※角書「三勝/半七」。	酒屋の段(越路  吉兵衛)。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。	酒屋(春子)。 ※春子太夫・新左衛門一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(春子  新左衛門)。 ※大阪稲荷座若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(春子)。 ※柳適太夫・春子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	内。 ※大阪 大隈太夫一座・東京 朝太夫一座による「京阪合併浄瑠璃」の (一  松吉)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(朝  松太郎)。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	酒屋(高尾)。 ※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△		△		西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
1900	明治33	8/13	8/9	1900	明治33	7/30	7/30	京都南座	前頁から続き	三勝半七	酒屋(南部Ⅱ吉作)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
1900	明治33	7/30	7/25	1900	明治33	1	1	京都南座	御霊文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(越路)。 酒屋(南部)。 ※文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
1899	明治32	12/24	12/24	1899	明治32	12/24	12/24	京都南座	(艷容女舞衣)	酒屋の段(越路Ⅱ吉兵衛)。 ※角書「三勝/半七」。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		
											上塩町酒屋のどん(中源、切越路)。 ※「一月一日ヨリ二月廿日マデ五十日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	傾城三勝(紋之助)、半七(栄三)、親半兵衛(玉治)、半兵衛女房(三五)、女房おその(紋十郎)、宗岸(金之助)。
											酒屋(小窩)。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	



「艷容女舞衣」(上演年表)

	△	△	△	△	△			
	一九〇一	一九〇一	一九〇一	一九〇一		一九〇〇	一九〇〇	
	明治34	明治34	明治34	明治34		明治33	明治33	
	7/22	6/16 6/7	5/30	2/1	12/15	12/14	12/5	10/31~
	名古屋 歌舞伎座	千歳 座	天満 座	名古屋 御園 座		末広 座	名古屋	明楽 座
	三勝半七	(艷容女舞衣) 三勝半七	三勝半七	三勝半七			三勝半七	艷容女舞衣
	※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※長町の段(さの)。 ※越路太夫・文字太夫一座。素浄瑠璃。	※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 酒屋段(谷路)。	※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。 酒屋(文字)。	※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 酒屋(小隅  力松)。 ※竹本組太夫一座。素浄瑠璃。	※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※明楽座一座。素浄瑠璃。 長町腹切(一  富子)。	酒屋(雛  猿九郎)。	酒屋(住  小團二)。	※角書「三かつ/半七」。
								みのや三かつ(兵杖)、茜屋半七(兵之助)、親半兵、(門造)、酒屋女房(友造)、おその(清十郎)、親宗岸(冠二)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△		△		△			△					
西暦	年	月			劇場			上演外題			場割・備考			
一九〇一	明治34	12/7	12/12	12/5	8/22	8/24	8/16	8/9	8/4	8/3	京都 南 座	三勝半七 艷容女舞衣	長町(さの)。 酒屋(越路)。 酒屋(南部)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	主な人形役割
東京 歌舞伎座			末 広 座	名古屋	末 広 座	幾 代 亭	京都							
三勝半七			三勝半七		三勝半七	三勝半七	三勝							
※『歌舞伎座百年史』に拠る。 ※大隅太夫一座。 酒屋(伊達・友松)。		酒屋(住小団二)。 ※住太夫・朝太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		酒屋(朝松太郎)。	酒屋の場(春子・猿治郎)。 ※大坂明楽座、竹本大隅太夫・鶴沢叶一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(谷路)。 ※組太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(小隅)。	※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。						

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九〇二	一九〇二	一九〇二	一九〇二	一九〇二	一九〇二	一九〇二
明治35	明治35	明治35	明治35	明治35	明治35	明治35
8/30	8/24	8/4	5/31	5/27~	4/4	2/22
京都 岩神座	京都 歌舞伎座	京都 南座	京都 岩神座	明楽 座	名古屋 末広座	名古屋 御園座
三勝半七	三勝半七	(艷容女舞衣)	三勝半七	艷容女舞衣	三勝半七	三勝半七
※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	※素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	※大阪文楽座、文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	(文字  吉弥)。 ※大阪文楽座、文字太夫一座。素浄瑠璃。 ※角書「三かつ/半七」。	酒屋(生島  仙十郎)。 ※竹本七五三太夫・生島太夫・さの太夫・三味線 豊沢新左衛門・仙十郎・外十数名。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋の段(文字  吉弥)。 ※大阪文楽座、文字太夫・吉弥一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
				三かつ(新三郎)、茜屋半七(玉治郎)、茜屋半兵(友造)、酒屋婆々(清十郎)、嫁おその(玉五郎)、親宗岸(玉松)。		

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九〇二	明治 35	12/7	兵庫 朝日座	三勝半七	酒屋のだん(文字Ⅱ吉弥)。	みのや三勝(紋太郎)、茜屋半七(玉丸)、茜屋半兵衛(玉朝)、酒屋ばゞ(紋之助)、嫁おその(玉助)、親宗岸(玉治)。
△	△	△	△	△	△	△
一九〇二	明治 35	12/21	京都 夷谷座	三勝半七	酒屋(住)。 ※「大坂文楽明楽合併大浄瑠璃」の内。 ※「近代歌舞伎年表 名古屋篇」に拠る。	
△	△	△	△	△	△	△
一九〇三	明治 36	3/12	名古屋 歌舞伎座	三勝	酒屋(路Ⅱ浜右衛門)。 ※「大坂文楽座竹本越路太夫改め竹本春太夫門人若手一座」(「新愛知」3月10日)。素浄瑠璃。 ※「近代歌舞伎年表 名古屋篇」に拠る。	
△	△	△	△	△	△	△
一九〇三	明治 36	7/27	天満座	三勝半七	酒屋(大隅)。 ※「近代歌舞伎年表 大阪篇」に拠る。	(不明)
△	△	△	△	△	△	△
一九〇三	明治 36	8/12	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋ノ段(越路Ⅱ吉弥)。 ※竹本文字太夫改三代目竹本越路太夫改名披露。素浄瑠璃。 ※「近代歌舞伎年表 名古屋篇」に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△		△		△		△	
一九〇四	明治37	7/25	7/18	一九〇四	明治37	6		一九〇三	明治36
	御園座		名古屋		御霊文楽座		千歳座		京都南座
	三勝半七		艷容女舞衣		(艷容女舞衣)		女舞衣		(艷容女舞衣)
酒屋(時)。 ※越路太夫・文太夫・南都太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		酒屋(越路)。 上塩町酒屋のだん(中時、切津  猿糸)。 ※『六月七日ヨリ七月三日マデ廿五日間』(『義太夫年表 明治篇』)。		酒屋(生嶋)。 ※大坂明菜一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		酒屋(雛  团丸)。 ※玉造・紋十郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		酒屋(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
		三かつ(栄三)、茜屋半七(玉六)、親半兵衛(三吾)、半平べ女房(紋之助)、女房おその(紋十郎)、親宗岸(玉助)。				三勝(玉六)、半七(紋太郎)、半兵衛(玉亀)、半七母(紋之助)、お園(助太郎)、惣岸(玉次郎)。			

「艶容女舞衣」(上演年表)

△		△		△		△		△		△	
西暦	年	月		劇場		上演外題		場割・備考		主な人形役割	
一九〇五	明治38	1/17	12/19	12/23	12/15	9/17	9/16	8/15	8/9	7/30	
朝日座	京都	角座		歌舞伎座	東京歌舞伎座	名古屋	天満座	京都本座		京都歌舞伎座	
(艶容女舞衣)	(艶容女舞衣)				三勝半七		三かつ半七	(艶容女舞衣)		(艶容女舞衣)	
酒屋(伊達Ⅱ市二郎)	酒屋(伊達Ⅱ市二郎) ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	酒屋(大隅) ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	酒屋(南部Ⅱ寛治郎) ※大阪文楽義太夫一座。23日は「慈善興行」 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	酒屋(撰津大掾Ⅱ吉兵衛)	酒屋(伊達) ※竹本大隅太夫・伊達太夫・長子太夫・鍛太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(越路) ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(越路) ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(越路Ⅱ吉弥) 酒屋(南部Ⅱ寛次郎) ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。			

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九〇五	一九〇五	一九〇五	一九〇五	一九〇五	一九〇五	一九〇五
明治38	明治38	明治38	明治38	明治38	明治38	明治38
9/5	8/20	7/20	7/9	6/6	3	2/18
名古屋 千歳座	京都 南座	東京 歌舞伎座	名古屋 新守座	京都 岩神座	御霊文楽座	名古屋 新守座
女舞衣	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	三勝半七	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	艷容女舞衣
長町の段(南勢)。	酒屋(南勢)。 ※大阪文楽座青年連、南部太夫・猿糸一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(大隅・清六)。 ※竹本大隅太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	酒屋(富)。 ※竹本文太夫一座による「大阪/文楽若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(伊達)。 ※竹本伊達太夫・竹本長子太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋のだん(中・南部、切・摂津大掾)。 ※三月一日ヨリ四月五日マデ卅六日間(『義太夫年表 明治篇』)。	酒屋(葉・団三郎)。 ※伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 三勝半七酒屋の段(越路・吉弥)。 ※竹本住太夫・竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
					三かつ(政亀)、茜屋半七(玉六)、半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉五郎)、おその(紋十郎)、親宗岸(玉助)。	

「艶容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九〇五	明治38	9/6	前頁から続き 明治座	三勝半七	酒屋の段(南部)。 ※大阪両座撰抜若手揃浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△				(艶容女舞衣)		
一九〇六	明治39	2/6	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△				(艶容女舞衣)		
一九〇六	明治39	2/12	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(さの)。 ※故紫福七回忌追悼の浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△				(艶容女舞衣)		
一九〇六	明治39	2/18	京都 岩神座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△				(艶容女舞衣)		
一九〇六	明治39	7/1~	堀江座	艶容女舞衣	上塩町酒屋のだん(中角、切春子、此所人形出遣いにて御覧に入候)、道行のだん(角・一・組栄・一子・敷嶋)。 ※角書「三かつ／半七」。	三かつ(小兵吉)、半七(玉市)、酒屋半兵へ(玉治)、酒屋の婆々(兵三)、おその(玉松)、親宗岸(兵吉)。
△				(艶容女舞衣)		
一九〇六	明治39	7/27	京都 歌舞伎座	(艶容女舞衣)	酒屋(南部)。	



「艷容女舞衣」(上演年表)

△			△		△		△	
一九〇六			一九〇六		一九〇六		一九〇六	
明治39			明治39		明治39		明治39	
12/8	12/7	12/3	8/9		8/10	8/9	8/7	8/4
名古屋 末広座			名古屋 歌舞伎座		京都 千本座		名古屋 末広座	
(艷容女舞衣)			三勝半七		(艷容女舞衣)		女扇衣	
酒屋(朝登)。			酒屋(朝  松太郎)。		酒屋(津磨)。		酒屋(越路  吉弥)。	
酒屋(住  龍助)。 ※朝太夫・松太郎一座、住太夫・龍助一座による「合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。			酒屋(春子  新左衛門)。 ※竹本津ばめ太夫ほかによる「大阪若手浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。		酒屋(南部)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。		長町(さの)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
							酒屋(叶)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九〇七	明治40	8/8	京都 南座	(艷容女舞衣)	酒屋(摂津大掾Ⅱ広助)。 ※摂津大掾一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九〇七	明治40	12/11	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋の段(越路Ⅱ吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫・べ太夫・南部太夫・時太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一九〇七	明治40	12/20	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋(住Ⅱ龍助)。 ※『大阪文楽』堀江両座合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一九〇八	明治41	2/1	南地演舞場	(艷容女舞衣)	酒屋(富)。 ※第1回浄瑠璃奨励若葉会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
一九〇八	明治41	2/27	京都 歌舞伎座	三勝半七	酒屋(南部)。 ※大阪文楽・堀江両座合併若手連。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九〇八	明治41	4/12	名古屋 末広座	三勝半七女舞衣	酒屋の段(伊達Ⅱ吉三郎・琴団吾)。 ※『大坂堀江座大浄瑠璃』の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一九〇八	明治41	7/12	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋(摂津大掾Ⅱ広助)。 ※大阪文楽一座。竹本摂津大掾名古屋一世一代。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九〇八	一九〇八	一九〇八	一九〇八	一九〇八	一九〇八	一九〇八
明治41	明治41	明治41	明治41	明治41	明治41	明治41
12/23	12/11	12/9	9/18	9/6	8/18	8/8
京都 歌舞 伎座	東京 歌舞 伎座	名古屋 御園 座	京都 岩神 座	京都 南座	中座	京都 南座
(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	三勝半七	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	三勝半七
酒屋(南部  寛次郎)。 ※大阪文楽若手一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(榎津大掾  広助)。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。 ※竹本榎津大掾一座。	酒屋(叶  吉松)。 ※「大阪文楽・堀江合併大浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(綴)。 ※文太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(伊達)。 ※竹本大隅太夫・豊沢団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	酒屋(伊達)。 ※大隅太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九〇九	明治42	1/2~	堀江座	艷容女舞衣	酒屋のどん(中角、切春子)、道行のどん(角・静・敷島・湖・隅栄・初音・新菅・春代、此所人形出遣いにて御覧に入申候。 ※角書「三勝／半七」。	三かつ(政亀)、酒屋半七(玉市)、酒屋半兵へ(紋三)、酒やばゞ(兵三)、おその(簀助)、親宗岸(兵吉)。
一九〇九	明治42	2/16	京都南座	(艷容女舞衣)	酒屋(越路II吉兵衛)。 ※文楽一座、越路太夫・村太夫・南部太夫・呂太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九〇九	明治42	5/16~	御霊文楽座	艷容女舞衣	酒屋のどん(中時、切撰津大掾)。 ※『五月十六日ヨリ六月十三日マデ廿九日間』(『義太夫年表 明治篇』)。	三かつ(三左衛門)、半七(琴糸、半兵衛(玉治)、半兵衛女房(三吾)、おその(紋十郎)、親宗岸(門造)。
一九〇九	明治42	8/15~	松山新栄座	(艷容女舞衣)	酒屋。 ※『春子太夫の伊予行大成功』(中略)：十一日間興行し、同地にて是迄に無き大当りを占め、日本一の酒屋の出番の如きは、楽屋迄聴客詰るあり様にてありき』(『浄瑠璃雑誌』第78号)。 ※『義太夫年表 明治篇』欄外記事、『浄瑠璃雑誌』第78号に拠る。	
一九〇九	明治42	8/18カ	名古屋御園座	(艷容女舞衣)	酒屋の段(越路)。 ※『御園座七十年史』に拠る。	
一九〇九	明治42	8/19	京都岩神座	(艷容女舞衣)	酒屋(鏡)。 ※大阪文楽座、染太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九一〇	一九一〇	一九〇九	一九〇九	一九〇九	一九〇九	一九〇九
明治43	明治43	明治42	明治42	明治42	明治42	明治42
2/16	2/4	12/5	9/14	9/10	9/1	8/22~
京都 明治 座	名古屋 千歳 座	角 座	国 華 座	京都 華 座	京都 南 座	常 盤 座
(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	三 勝		(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)
酒屋(越路)吉兵衛。 ※大阪文楽一座。素淨瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(鳴門)善次郎。 ※呂大夫一座。素淨瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(伊達)。 ※堀江座連による『浄瑠璃会』。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	酒屋(二葉)金之助。 ※東阪合同浄瑠璃会。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(三根)団七。 酒屋(三根)金之助。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(越路)吉兵衛。 ※大阪文楽一座、越路大夫・南部大夫・鶴尾大夫・常子大夫・古朝太夫ほか。素淨瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(里)。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。

「艶容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一〇	明治43	5/14~	御靈文楽座	艶容女舞衣	長町みのやのだん(口葉、奥南部)、上塩町酒屋のだん(中源)* 勝太郎、切越路(吉兵衛)。 ※「五月十四日ヨリ十二日マデ卅(廿九)日間」(『義太夫年表 明治篇』)。	三かつ(三左衛門)、茜屋半七(紋之助)、親半兵衛(玉治郎)、半兵衛女房(玉五郎)、女房おその(紋十郎)、親宗岸(助太郎)。
△	△	△	△	△	△	△
一九一〇	明治43	7/4	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋(伊達(吉三郎))。 ※大隅太夫・団平一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△	△	△	△	△	△	△
一九一〇	明治43	7/16	名古屋 御園座	三かつ半七	酒屋(越路(吉兵衛))。 ※大阪文楽座附竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
△	△	△	△	△	△	△
一九一〇	明治43	8/1	京都 南座	(艶容女舞衣)	酒屋(越路(吉兵衛))。 ※文楽一座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	△	△	△	△	△	△
一九一〇	明治43	8/13	京都 国華座	三勝	酒屋(越路(吉兵衛))。 ※越路太夫・津太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	△	△	△	△	△	△
一九一〇	明治43	8/24	京都 歌舞伎座	女舞衣	酒屋(南部)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△	△	△	△	△	△	△
一九一〇	明治43	9/5	京都 岩神座	(艶容女舞衣)	酒屋(南部)。 ※南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九二一	一九二一	一九二一	一九二一	一九二一	一九二一	一九二〇
明治44	明治44	明治44	明治44	明治44	明治44	明治43
8/13	7/6	5/27~6/4	5/12	4/1~	3/22	12/12
浪花座	京都 歌舞伎座	京都 座	繁栄座	堀江座	名古屋 御園座	名古屋 御園座
三勝	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	三かつ半七
酒屋(南部)。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 ※『近代歌舞伎年表 大正篇』に拠る。 ※『近代歌舞伎年表 大正篇』に拠る。 ※『近代歌舞伎年表 大正篇』に拠る。	酒屋(越路)吉兵衛)。 ※越路一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(春子)新左衛門)。 ※大隅太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(大島)。 ※座主江田孫太郎還暦祝演芸会。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	酒屋の段(中角、切伊達)、道行の段(菅・組栄・薫・隅の・織子、此所人形出遣いにて御覧に入申候)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※『角太夫相三味線富太郎ノ代役仙之助』(『義太夫年表 明治篇』)。	酒屋(南部)猿糸)。 ※竹本南部太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋の段(越路)吉兵衛)。 ※大阪文楽座、越路太夫・七五三太夫・古朝太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
		(不明)		美濃屋三かつ(政亀)、西屋半七(小兵吉)、酒屋半兵衛(駒十郎)、半兵へ女房(冠四)、嫁おその(玉造)、親宗岸(兵吉)。		

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
西暦	一九一三	一九一三	一九一三	一九一三	一九一三	一九一三
年	明治45	明治45	明治44	明治44	明治44	明治44
月	4/12	3/1~	12/18	10/14~	10/9	9/4
劇場	京都 開盛座	近松 座	名古屋 御園座	名古屋 吾妻座	名古屋 末広座	京都 岩神座
上演外題	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	三勝半七	三勝半七	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)
場割・備考	酒屋(鏡)。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(鏡)。 ※近松座若手連中。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 ※角書「三かつ／半七」。	酒屋(越路)。 ※越路太夫・南部太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(春子)新左衛門)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。 ※大阪初上り 吉田清五郎一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(春子)新左衛門)。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。 ※越路一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(南部)猿糸)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。
主な人形役割		美濃屋三かつ(政亀)、西屋半七(玉市)、西屋半兵衛(駒十郎)、半兵衛女房(冠四)、嫁おその(玉造)、親宗岸(兵吉)。				



「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九一三	一九一三	一九一三	一九一三	一九一三	一九一二	一九一二
大正2	大正2	大正2	大正2	大正2	大正1	明治45
7/1	6/21~26	2/22	2/9	12/3	10/11	7/16
京都 都座	東京 有楽座	名古屋 末広座	京都 南座	東京 新富座	京都 開盛座	浪花 花座
(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	三勝
酒屋(越路)。 ※大阪文楽座連、越路太夫・吉兵衛。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(春子)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	酒屋(伊達)徳太郎)。 ※大隅太夫・団平、伊達太夫・徳太郎、錦太夫・仙市、ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(春子)。 ※大阪近松座引越し、大隅一派。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(越路)吉兵衛)。 ※『演芸倶楽部』(大正2年1月号)に拠る。	酒屋(苔)宗三郎)。 ※文楽座、呂太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(越路)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一三	大正2	10/26~	御霊文楽座	艷容女舞衣	酒屋のだん(中呂、切越路  吉兵衛)。 ※二十三日間、十一月十六日打上(『義太夫年表 大正篇』)。	三勝(玉吉)、茜屋半七(紋枝)、半兵衛(文三)、半兵衛女房(駒十郎)、おその(栄三)、宗岸(多為威)。
△ 一九一三	△ 大正2	△ 11/8	△ 名古屋帝國座	△ (艷容女舞衣)	酒屋(伊達  猿二郎)。 ※近松座、竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△ 一九一三	△ 大正2	△ 11/25	△ 京都明治座	△ (艷容女舞衣)	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△ 一九一三	△ 大正2	△ 12/5	△ 東京新富座	△ (艷容女舞衣)	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△ 一九一三	△ 大正2	△ 12/8	△ 東京明治座	△ (艷容女舞衣)	酒屋(勇  助三郎・琴小団)。 ※近松座。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
△ 一九一三	△ 大正2	△ 12/14	△ 名古屋御園座	△ 三勝半七	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※竹本越路太夫・野沢吉兵衛一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
△ 一九一四	△ 大正3	△ 7/16	△ 京都南座	△ (艷容女舞衣)	酒屋(伊達)。 ※大阪文楽一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
△ 一九一四	△ 大正3	△ 8/1	△ 東京新富座	△ (艷容女舞衣)	酒屋(伊達  仙糸)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

	△	△	△			
一九一四	大正3	10/3~	近松座	艷容女舞衣 一卷	酒屋のだん(中三笠  大之助、切春子  新左衛門・琴新之助)。 ※角書「三勝/半七」。	三かつ(玉米、茜屋半七(玉徳)、酒屋半兵衛(兵三)、半兵へ女房(冠四)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(兵吉)。
一九一五	大正4	1/2~	御霊文楽座	艷容女舞衣	酒屋のだん(中鍛  *勝平、切伊達  吉三郎)、道行のだん(淀・越見・源路・和・南治  *勇造・*兵内・*卯三郎・*吉石・*吉雄)。 ※「三十二日間、二月二日打上(大入十五日間)」(『義太夫年表 大正篇』)。	みのや三かつ(玉七)、茜屋半七(政亀)、茜屋半兵衛(文三)、半兵へ女房(玉五郎)、おその(文五郎)、親宗岸(多為蔵)。
一九一五	大正4	7/1	京都南座	(艷容女舞衣)	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※大阪文楽座、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九一五	大正4	7/9	浪花座	(艷容女舞衣)	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
一九一五	大正4	7/17	名古屋御園座	三勝半七	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※越路太夫一行。素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	
一九一五	大正4	9/15~	御霊文楽座	艷容女舞衣	酒屋のだん(中駒  *三三、切南部  *寛治郎)。 ※「二十五日間、九月三十日節季休、十月一日返り初日、十日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。	美濃屋三勝(政亀)、茜屋半七(紋三)、茜屋半兵衛(駒十郎)、半兵へ女房(玉五郎)、女房おその(栄三)、親宗岸(文三)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九一五	大正4	12/3	名古屋 御園座	(艷容女舞衣)	酒屋の段(越路  吉兵衛)。 ※大阪御霊文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	(不明)
一九一五	大正4	12/12	名古屋 末広座	(艷容女舞衣)	酒屋(伊達  吉三郎)。 ※竹本伊達太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	おその(文五郎)。
一九一五	大正4	12/19	東京 新富座	(艷容女舞衣)	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	
一九一六	大正5	5/9	名古屋 末広座	三勝半七	酒屋(春子  新左衛門)。 ※竹本春子太夫・鶴沢寛六等外十数名の大一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	
一九一六	大正5	7/4	京都 南座	三勝半七	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九一六	大正5	7/12	浪花 花座	(艷容女舞衣)	酒屋(朝  松太郎)。 ※竹本朝太夫・豊沢松太郎・近松座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	
一九一六	大正5	8/3	京都 明治座	三勝半七	酒屋(朝)。 ※竹本朝太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	
一九一六	大正5	8/11	名古屋 末広座	(艷容女舞衣)	酒屋(朝  松太郎・琴芳太郎)。 ※東京 竹本朝太夫・豊沢松太郎一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九一七	一九一七	一九一七	一九一七	一九一七	一九一六	一九一六
大正6	大正6	大正6	大正6	大正6	大正5	大正5
7/21	7/12	7/10	5/20~	5/4	12/7	9/23
蓬 名古屋 座	末 広 座	南 京都 座	御 霊 文 楽 座	末 広 座	東 京 歌 舞 伎 座	名 古 屋 明 治 座
(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	三 勝
酒屋(春治Ⅱ小兵)。 ※竹本錦太夫・竹本角太夫・三味線 竹沢団六・豊沢兵吉。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(春次Ⅱ兵之助)。 ※近松座、竹本錦太夫・竹本角太夫一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(越路Ⅱ吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	※「六月十三日打上(大入七回)」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『長町美のやのだん(口八十、奥 南部Ⅱ*寛治郎)、酒屋のだん(中源Ⅱ*勝市、切越路Ⅱ吉兵衛)』。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(綴Ⅱ徳太郎)。 ※豊竹古靱太夫・鶴沢清六一行。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(越路Ⅱ吉兵衛)。 ※文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	※豊竹呂太夫一座。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。
			美濃屋三勝(文五郎)、茜屋半七(玉松)、茜屋半兵衛(文三)、半兵衛女房(玉五郎)、おその(栄三)、親宗岸(玉蔵)。			

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
西暦	一九一七	一九一七	一九一七	一九一七	一九一七	一九一七
年	大正7	大正7	大正7	大正6	大正6	大正6
月	7/15	7/14~21	12/24	12/19	12/8	12/3
劇場	名古屋御園座	東京有楽座	名古屋御園座	名古屋御園座	東京歌舞伎座	東京有楽座
上演外題	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	三勝半七	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)
場割・備考	酒屋(越路)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	酒屋(越路)吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。素淨瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	酒屋(綴)徳太郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	酒屋(叶)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』、『御園座七十年史』に拠る。	酒屋(叶)叶)。 ※大阪文楽座浄瑠璃一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	酒屋(越路)吉兵衛)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。
主な人形役割		お園(文五郎)。	(不明)	(不明)		

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△
一九一九	一九一九	一九一八	一九一八	一九一八
大正8	大正8	大正7	大正7	大正7
7/7	4/23~	12/2	12/2	11/29~
京都 南座	御霊文楽座	名古屋 千歳座	東京 歌舞伎座	京都 竹豊座
三勝 半七	艷容女舞衣	三勝 半七	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣
酒屋の段(越路  吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、竹本越路太夫、素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	長町美濃屋の段(口淀、奥古鞆  *清六)、酒屋の段(中叶、越路  吉兵衛)。 ※角書「三かつ/半七」。 ※「三十日間 五月二十二日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「長町美濃屋の段丸本通りで広助節付のもの」(『義太夫年表 大正篇』)。	酒屋(越名)。 ※研声会一座による「大阪文楽座青年浄瑠璃」。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※大阪文楽座、竹本越路太夫一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	酒屋(越路  吉兵衛)。 酒屋の段(簾)、道行の段(南登・春美・松重・徳)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。
	美濃屋三かつ(栄三)、茜屋半七(玉七)、茜屋半兵衛(文三)、半兵衛女房(玉五郎)、おその(文五郎)、親宗岸(玉蔵)。			三勝(扇太郎)、半七(鶴松)、半兵衛(文太郎)、半兵衛女房(兵三)、おその(小兵吉)、宗岸(玉松)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
西暦	一九一九	一九一九	一九一九	一九一九	一九一九	一九一九
年	大正8	大正8	大正8	大正8	大正8	大正8
月	12/3	9/18～	9/16	8/20	8/12～17カ	7/9
劇場	東京 歌舞伎座	京都 竹豊座	名古屋 末広座	浪花座	東京 新富座	名古屋 御園座
上演外題	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)
場割・備考	酒屋(越路  吉兵衛・ツレ勝市)。 ※大阪文楽座浄瑠璃大一座。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	酒屋のどん(古金改メ 嶋菊、角)。 ※角書「三勝/半七」。	酒屋(伊達  吉三郎)。 ※大阪文楽座大浄瑠璃。竹本伊達太夫一座。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。	酒屋(南部  寛治郎)。 ※素浄瑠璃。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事、『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	酒屋(南部  寛治郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	酒屋の段(古鞆  清六)。 ※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』には、酒屋(鍛  徳太郎)とある。 ※『御園座七十年史』に拠る。
主な人形役割		美濃屋三勝(玉米)、茜屋半七(浅造)、茜屋半兵衛(光造)、半兵衛女房(兵三)、娘おその(小兵吉)、親宗岸(辰五郎)。			おその(栄三)。	(不明)



「艷容女舞衣」(上演年表)

	△	△	△		△
一九二二	一九二〇	一九二〇	一九二〇	一九二〇	一九一九
大正10	大正9	大正9	大正9	大正9	大正8
3/31~	8/2	7/24	7/1	3/1~	12/18
京都 竹豊座	京都 南座	名古屋 御園座	中座	京都 竹豊座	名古屋 御園座
艷容女舞衣	三勝半七	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)
酒屋のだん(中 南登  弥十郎、切角  弥七・琴 弥太郎)。 ※角書「三勝/半七」。 ※「竹豊座本興行限り」(『義太夫年表 大正篇』)。	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※大阪文楽座引越、越路太夫一座。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※越路一座。 ※『御園座七十年史』に拠る。	酒屋(越路  吉兵衛)。 ※文楽座連中による「浄瑠璃会」。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。	酒屋のだん(大嶋、春子  *新左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。	酒屋の段(越路  吉兵衛)。 ※竹本越路太夫一座。 ※『御園座七十年史』に拠る。
美濃屋三勝(花吉)、茜屋半七(兵十郎)、茜屋半兵衛(冠造)、半七の母(兵三)、おその(小兵吉)、親宗岸(玉松)。		おその(栄三)、宗岸(文三)。		美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(富十郎)、親半兵衛(兵十郎)、半兵衛女房(兵三)、娘おその(小兵吉)、親宗岸(玉松)。	(不明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

	△	△	△	△	△
西暦	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二	一九二二
年	大正11	大正10	大正10	大正10	大正10
月	4/18～	12/9	8/2	7/5	6/15～
劇場	御霊文楽座	名古屋 末広座	名古屋 御園座	京都 南座	御霊文楽座 竹本伊達太夫宅
上演外題	艷容女舞衣	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	三勝
場割・備考	酒屋のだん(中相生、切伊達)*吉三郎。 ※「二十三日間、五月十日打上」(『義太夫年表 大正篇』)。 ※「近代歌舞伎年表 名古屋篇」に抛る。	酒屋(伊達*吉三郎)。 ※文楽座。 ※「近代歌舞伎年表 名古屋篇」に抛る。	酒屋(南部*寛次郎)。 ※「近代歌舞伎年表 名古屋篇」に抛る。	酒屋の段(南部*寛次郎)。 ※角書「三勝/半七」。 ※大阪文楽一座引越し。素浄瑠璃。 ※「近代歌舞伎年表 京都篇」に抛る。	長町(越名*清二郎)。 ※大序会。 ※「女舞剣紅楓」の可能性もある。 ※「義太夫年表 大正篇」欄外記事に抛る。
主な人形役割	美のや三勝(太郎)、茜屋半七(玉八)、茜屋半兵衛(玉次郎)、半兵衛女房(辰五郎)、お園(文五郎)、親宗岸(玉蔵)。	お園(文五郎)、宗岸(玉次郎)。	(不明)	三勝(政亀)、半七(玉七)、茜屋半兵衛(文三)、半兵衛女房(辰五郎)、おその(栄三)、親宗岸(玉蔵)。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	一九二四	大正13	8/21	京都 南座	艷容女舞衣	<p>※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。</p> <p>※大阪文楽。素浄瑠璃。</p> <p>三勝半七酒屋の段(鉸Ⅱ団六)。</p>	
△	一九二四	大正13	7/20	中座	(艷容女舞衣)	<p>酒屋(鉸Ⅱ団六)。</p> <p>※文楽座連中による「浄瑠璃演奏会」。</p> <p>※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。</p>	
△	一九二四	大正13	3/19~	京都 新京極文楽座	艷容女舞衣	酒屋のだん(切叶Ⅱ叶)。	三勝(扇太郎)、半七(文之助)、茜屋半兵衛(兵十郎)、同女房(三郎)、おその(栄三)、親宗岸(辰五郎)。
△	一九二三	大正12	8/21~23	京都 南座	艷容女舞衣	<p>※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。</p> <p>酒屋の段(つばめⅡ八造、鉸Ⅱ団六・琴団二郎)。</p>	三かつ(玉七)、半兵衛(玉二郎)、半兵衛女房(琴糸)、おその(文五郎)、宗岸(文三)。
△	一九二三	大正12	8/2	浪花 花座	(艷容女舞衣)	<p>酒屋(伊達Ⅱ吉三郎)。</p> <p>※文楽座連中による「浄瑠璃大会」。</p> <p>※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。</p>	
△	一九二二	大正11	12/10	東京 新富座	(艷容女舞衣)	<p>酒屋(鉸Ⅱ団六)。</p> <p>※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。</p>	
△	一九二二	大正11	7/26	京都 中座	(艷容女舞衣)	<p>酒屋(駒Ⅱ錦糸)。</p> <p>※大阪文楽座若手連引つ越し。素浄瑠璃。</p> <p>※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。</p>	
△	一九二二	大正11	7/20	名古屋 末広座	(艷容女舞衣)	<p>酒屋(源Ⅱ勝市)。</p> <p>※大阪文楽座。</p> <p>※『近代歌舞伎年表 名古屋篇』に拠る。</p>	(不明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二四	大正13	9/18～	京都 新京極文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(切駒  燕四改メ才治)。	みのや三勝(文之助)、西屋半七(紋太郎)、西屋半兵衛(光造)、同女房(三郎)、おその(文五郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九二五	大正14	2/4～	御霊文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(中町、切土佐  *吉三郎)。 ※『二十一日間』(義太夫年表 大正篇)。	美濃屋三勝(玉米)、西屋半七(文作)、西屋半兵衛(玉次郎)、半兵衛女房(琴糸)、おその(文五郎)、親宗岸(玉蔵)。
一九二五	大正14	5/1～	京都 新京極文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(中越穂  八助、切鍛  新左衛門・琴新之助)。	みの屋三勝(紋太郎)、西屋半七(文之助)、西屋半兵衛(冠造)、半兵衛女房(三郎)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九二五	大正14	7/10～11	神戸 松竹劇場	(艷容女舞衣)	酒屋(土佐  吉三郎)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	お園(文五郎)。
一九二五	大正14	7/20～21	名古屋 御園座	(艷容女舞衣)	酒屋の段(土佐  吉三郎)。 ※『御園座七十年史』に拠る。	お園(文五郎)。
一九二五	大正14	7/30～8/2	東京 歌舞伎座	艷容女舞衣	酒屋(中相生  団六、切伊達改め 土佐  吉三郎)。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。	半兵衛(政亀)、お園(文五郎)、宗岸(辰五郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九二六	一九二六	一九二六	一九二六	一九二五	一九二五	一九二五
大正15	大正15	大正15	大正15	大正14	大正14	大正14
7/11	6/22	2/15	1/30	12/4カ	9/20~21	8/12
富田林 塚屋	京都 南座	本田吾妻倶楽 部	京都 京都 京都 座	高知	京都 南座	中 座
(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	艷姿女舞衣	(艷容女舞衣)
酒屋(春次  竹弥)。 ※第2回近松会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	酒屋の段(土佐  吉三郎)。 ※文楽座引越し、豊竹古朝太夫・竹本土佐太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(陸路  叶七)。 ※文楽若手会。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	酒屋之段(越名  友衛門)。 ※大阪文楽座、竹本文字太夫・竹本相生太夫ほか。素浄瑠璃。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(土佐)。 ※『義太夫年表 大正篇』欄外記事に拠る。	酒屋のだん。 ※『近代歌舞伎年表 京都篇』に拠る。	酒屋(鍛  新左衛門)。 ※文楽座連中による「涼み素浄瑠璃」の内。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。
					(不明)	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△		△		△	
一九二七		一九二七		一九二七		一九二六	
昭和2		昭和2		昭和2		大正15	
9/1		6/22~27		4/29~		12/12~16の内	
8/27		9/28		名古屋 御園座		堺 龍神座	
東京 歌舞伎座		弁天座		弁天座		御園座	
(艷容女舞衣)		艷容女舞衣		艷容女舞衣		艷容女舞衣	
酒屋(播路)叶太郎。 ※大阪文楽義太夫一座。素浄瑠璃。 ※『歌舞伎座百年史』に拠る。		酒屋(綴)新左衛門。 ※『近代歌舞伎年表 大阪篇』に拠る。 ※文楽若手向上会。		酒屋。 酒屋の段(中綴)新左衛門、切土佐吉兵衛・琴団二郎。		酒屋の段(綴)新左衛門。 ※『御園座七十年史』に拠る。	
				美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(玉徳)、茜屋半兵衛(政亀)、半兵衛女房(冠四)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小吉)。		場割・備考	
						(不明)	
						主な人形役割	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△
一九二八	一九二八	一九二八	一九二八	一九二七
昭和3	昭和3	昭和3	昭和3	昭和2
6/24	5/26	3/10~13	3/1~3	12/18
神戸 八千代座	丹波 柏原劇場	名古屋 御園座	神戸 八千代座	浪 花 座
三勝 半七	(艷容女舞衣)		艷容女舞衣	三勝 半七
酒屋(越名  友衛門)。 ※若手幹部連の素淨瑠璃。 ※「神戸新聞」(6月23~25日の記事、6月23~26日の広告)に拠る。	酒屋(駒  才治)。 ※『浄瑠璃雑誌』第70号に拠る。	酒屋の段(中相生  芳之助、切土佐  吉兵衛)。 ※大阪文楽座巡業(3月1~20日、神戸・名古屋・広島)の内。	酒屋の段(土佐  吉兵衛)。 ※「神戸新聞」(2月26・28~29日・3月1~6日の記事、2月28~29日・3月1~8日の広告)に拠る。	酒屋の段(巖  紋左衛門)。 ※大日本義太夫因会大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第265号に拠る。
		美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(冠四)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。	半兵衛(門造)、お園(文五郎)、宗岸(玉次郎)。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二八	昭和3	7/2	金沢 尾山倶楽部	(艷容女舞衣)	酒や(土佐  吉兵衛・琴新之助)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(7月1~13日、北陸)の内。素淨瑠璃。 ※「北国新聞」(6月28・30日・7月1・3~5日)に拠る。	
一九二八	昭和3	7/16	神戸 八千代座	(艷容女舞衣)	酒屋(土佐  吉兵衛)。 ※文楽中堅花形の大一座。素淨瑠璃。 ※「神戸新聞」(7月12・14~15・17~18日の記事、7月12~18日の広告)に拠る。	
一九二八	昭和3	8/23	浪花 花座	艷姿女舞衣	三勝/半七酒屋の段(つばめ  猿太郎)。 ※文楽座若手素淨瑠璃。	
一九二八	昭和3	8/26	九条会館	(艷容女舞衣)	酒屋(春次)。 ※幼声会審査連。竹本春次太夫は審査員。 ※『浄瑠璃雑誌』第273号に拠る。	
一九二八	昭和3	9/4~5	京都 南座	艷容女舞衣	酒屋の段(中源路  友衛門、切鋸  新左衛門・琴新之助)。	美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(冠四)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
一九二八	昭和3	10/1~	弁天 座	艷容女舞衣	酒屋の段(切鋸  新左衛門・琴福太郎/小庄/友駒/新之助)。	美濃屋三勝(紋太郎)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(冠四)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。



「艷容女舞衣」(上演年表)

	△	△		△
	一九二九	一九二九	一九二八	一九二八
	昭和4	昭和4	昭和3	昭和3
	1/17~18	1/8~10	12/11~15	11/11~13
	名古屋 御園座	神戸 八千代座	東京 新橋演舞場	京都 南座
	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	艷容女舞衣
	酒屋の段(朝猿糸)。 ※大阪文楽座巡業(1月15~25日、東海)の内。 ※「新愛知」(1月17~18日の記事、1月17日の広告)、「御園座八十年史」、「御園座百年史」に拠る。	酒屋。 ※「神戸新聞」(1月8~10日の記事、1月9日の広告)に拠る。	酒屋の段(中つばめ)勝市、切土佐吉三郎改め吉兵衛・琴団二郎)。	酒屋(和国吉松郎)。 ※第1回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第30号に拠る。
	お園(紋十郎)。	(不明)	美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(紋十郎)、親宗岸(玉治郎)。	美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉治郎)。

「艷容女舞衣」（上演年表）

△		△		△		△		
西暦	年	月		劇場		上演外題		
一九二九	昭和4	6/1～2	5/26	4/18	4/16	2/22	2/6	2/4
御園座	名古屋 主婦の友講堂	東雲座	豊橋座	浜松座	下関天座	寿座	岡山劇場	岡山劇場
艷容女舞衣	（艷容女舞衣）		艷容女舞衣	（艷容女舞衣）	三勝半七		艷容女舞衣	艷容女舞衣
5月31日の広告）、『御園座百年史』に拠る。	酒屋の段（中 つばめⅡ勝市、切 鉦Ⅱ新左衛門・琴新之助） ※「新愛知」（5月23・25・26・28・31日・6月1・2・4日の記事、5月31日の広告）、『御園座百年史』に拠る。	酒屋（生駒Ⅱ前 吉松郎、奥 泰助） ※第6回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃世界』第305号、『浄瑠璃雑誌』第280号に拠る。	三勝半七酒屋（つばめⅡ勝市・琴・小庄）の内。 ※大阪文楽座巡業（4月16・22日、東海）の内。 ※「参陽日報」（4月14・20日）、「新朝報」（4月14・15・17・20日）、「豊橋新報」（4月14・16・20日の記事、4月16日の広告）、「豊橋日日新聞」（4月14・20日の記事、4月16日の広告）に拠る。	酒屋（つばめⅡ勝市） ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	酒屋の段（鉦） ※大阪文楽座巡業（2月4・22日、山陽・九州）の内。 ※「大阪毎日新聞西部毎日」山口版（2月21・22日）、「防長新聞」（2月22日）に拠る。	酒屋の段（鉦Ⅱ新左衛門・琴新之助） ※「中国新聞」（2月7・8日の記事、2月5・8日の広告）に拠る。	酒屋の段。 ※「山陽新報」（1月22日・2月1・5日の記事、2月2日の広告）に拠る。	場割・備考
郎、宗岸（玉次郎）。	半兵衛（門造）、お園（文五）						（不明）	主な人形役割

「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△			
一九二九	昭和4	一九二九	昭和4	一九二九	昭和4
7/1~5	6/16	6/15~19	6/18	6/11~12	6/6
東京 新橋演舞場	東京銀座	東京 報知講堂	岡山 岡山劇場	神戸 八千代座	豊橋 東雲座
艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	女舞衣	三勝半七		
酒屋の段(中綾  勝三郎、切朝  松太郎・琴宗之助)。 ※『浄瑠璃雑誌』第280号に拠る。	酒屋(巖  新造)。 ※新撰所作浄瑠璃(浄瑠璃舞踊)。 ※『浄瑠璃世界』第305号に拠る。	酒屋(米  新次郎)。 ※第6回義太夫人形座。 ※『浄瑠璃世界』第305号に拠る。	酒屋の段(鍛  新左衛門)。 ※大阪文楽座巡業(6月1~19日、東海・山陽)の内。 ※『山陽新報』(6月15~16・18日)の記事、6月18日の広告に拠る。	酒屋の段(中つばめ  勝市、切鍛  新左衛門・琴新之助)。 ※『神戸新聞』(6月10~15日)の記事、6月9~15日の広告に拠る。	酒屋の段(中つばめ  勝市、切鍛  新左衛門・新之助)。 ※『参陽新報』(5月26・29・31日・6月1~4・6~7日)の記事、6月4・6日の広告、「新朝報」(5月26・29・31日・6月1~5日)の記事、6月4日の広告、「豊橋新報」(5月24・26・29・31日・6月2・4~7日)の記事、6月4・6日の広告、「豊橋日日新聞」(5月29・31日・6月1~7日)の記事、6月3・6日の広告に拠る。
美濃屋三勝(市松)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。			(不明)	三勝(紋太郎)、半七(玉市)、半兵衛(門造)、母親(冠四)、お園(文五郎)、宗岸(玉次郎)。	(不明)

「艶容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九二九	昭和4	8/7	長崎 南座	三勝半七	酒屋の段(春雄II団二郎)。 ※竹本角太夫一行巡業(7月25日～8月14日、九州)の内。 ※「長崎日日新聞」(8月7～8日)、『浄瑠璃雑誌』第282号に拠る。	
一九二九	昭和4	9/8	名古屋 新守座	三勝半七	酒屋の段(鏡II新左衛門)。 ※大阪文楽座巡業(9月7～23日、名古屋・神戸・高松)の内。 ※「新愛知」(9月3～8・10～11日の記事、9月6～7・9・11日の 広告)、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
一九二九	昭和4	9/17	岡山 高砂座	三勝半七	酒屋の段(駒司II吉子)。 ※豊竹駒太夫一行巡業(9月16～20日、岡山)の内。 ※「山陽新報」(9月15日)、『浄瑠璃雑誌』第283号に拠る。	
一九二九	昭和4	9/18	岡崎 松栄座	(艶容女舞衣)	酒屋(友II広三)。	
		9/20	愛知カ 安城座	(艶容女舞衣)	酒屋(友)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(9月18日～10月3日、東海・京都)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第284号に拠る。	
	昭和4	9/20	東京 三越ホール	(艶容女舞衣)	酒屋(滝)。 ※第9回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第282号に拠る。	
一九三〇	昭和5	1/26	実業会館	(艶容女舞衣)	酒屋(春次II竹弥)。 ※第7回近松会。 ※『浄瑠璃雑誌』第288号に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

一九三〇	昭和5	8/22	東京 東京劇場	艷容女舞衣	三勝/半七酒屋の段(鏡  新左衛門)。 ※素浄瑠璃。	
△						
一九三〇	昭和5	7/15	東京 三越ホール	(艷容女舞衣)	酒屋の段(都  松四郎)。 ※第19回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第293号に拠る。	
△						
一九三〇	昭和5	5/20	東京 甲子屋俱樂部	女舞衣	酒屋(君  松四郎)。 ※第17回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第291号に拠る。	
△						
一九三〇	昭和5	4/21	東京 三越ホール	(艷容女舞衣)	酒屋(越栄  重助)。 ※第16回浄瑠璃研究会。 ※『浄瑠璃雑誌』第290号に拠る。	
△						
一九三〇	昭和5	4/10~	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(切土佐  吉兵衛・琴小庄)。 ※「二十日間」(『文楽興行記録昭和篇』)。 ※『文楽興行記録昭和篇』では半兵衛女房の形遣い名の表記は「兵十郎」。	美濃屋三勝(市松)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(瓢寿呂、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉治郎)。
△						
一九三〇	昭和5	3/29	浅草 並木俱樂部	(艷容女舞衣)	三勝酒屋の段(巴磨  文之助)。 ※第1回浄瑠璃研声会。 ※『浄瑠璃雑誌』第289・290号に拠る。	
△						
一九三〇	昭和5	3/2	東京 電気俱樂部	(艷容女舞衣)	三勝/半七酒屋の段(米  新次郎)。 ※鶴沢重二郎、竹本津賀太夫門となり竹本東太夫と改名披露。 ※『浄瑠璃雑誌』第289号に拠る。	
△						
一九三〇	昭和5	3/1	東京 飛行館	(艷容女舞衣)	三勝/半七酒屋の段(滝  新造)。 ※五代竹本さの太夫改メ七代豊竹湊太夫披露会。竹澤電造身振劇出演。 ※『浄瑠璃雑誌』第289号に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△		△		
西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三〇	昭和5	12/1	四日市 湊座	(艷容女舞衣)	酒屋(源平Ⅱ吉男)。 ※文楽座若手人形浄瑠璃。桐竹門造後見女兒一人遣い人形入。 ※『浄瑠璃雜誌』第298号に拠る。	
一九三一	昭和6	4/4	広島 豊屋町演舞場 (竹本座)	(艷容女舞衣)	酒屋(春治)。 ※『浄瑠璃雜誌』第301号に拠る。	
一九三一	昭和6	4/9	博多 柳座 (竹本座)	(艷容女舞衣)	酒屋(春次)。 ※竹本角太夫一行巡業(4月3、12日、広島・博多)の内。吉田玉徳人形入。 ※『浄瑠璃雜誌』第301号に拠る。	
一九三一	昭和6	6/28	東京 市村座	(艷容女舞衣)	酒屋(津賀Ⅱ猿之助・琴民之助)。 ※豊竹巴磨太夫改め七代豊竹巴太夫襲名披露会。 ※『浄瑠璃雜誌』第304号に拠る。	美濃屋三勝(光之助)、半七(玉市)、半兵衛(門造)、女房(小兵吉)、嫁お園(文五郎)、宗岸(玉次郎)。
一九三一	昭和6	7/5~6	京都 南座	艷容女舞衣	酒屋の段(中鏡Ⅱ歌助、切鍛Ⅱ新左衛門・琴新之助)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
一九三一	昭和6	7/11~14	東京 明治座	艷容女舞衣	酒屋の段(中鏡Ⅱ吉左、切十佐Ⅱ吉兵衛・琴福太郎)。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△
一九三二	一九三一	一九三一	一九三一	一九三一
昭和7	昭和6	昭和6	昭和6	昭和6
1/22	11/27~30	11/24	10/16	10/8
堺 聚楽館 (竹本座)	東京 明治座	南地演舞場	徳島 稲荷座	広島 寿座
(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	艷容女舞衣
酒屋(浪華津  勝童)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	酒屋の段(中南部  吉弥、切古鞆  清六)。 ※角書「三かつ/半七」。	酒屋(お園  薫  半兵衛  鷹  宗岸  栄  母親  敷島  竹弥)。 ※竹本春次太夫追善会。生前兄弟弟子の総掛合。 ※『浄瑠璃雑誌』第310号に拠る。	酒屋(鏡  吉左、切土佐  吉兵衛、琴団二郎)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(10月1、18日、九州・山陽・四国)の内。 ※『大阪朝日新聞』徳島版(10月13日)、「徳島毎日新聞」(10月15、17日)、「浄瑠璃雑誌」第306号に拠る。	酒屋の段(土佐  吉兵衛)。 ※10月12日松山・国伎座で同公演あり。 ※『中国新聞』(10月2・9、10日の記事、10月2・6・8日の広告)、「海南新聞」(10月8・13日の記事)に拠る。
	美濃屋三勝(紋太郎)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(小兵吉)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。			(不明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三二	昭和7	5/6	名古屋 御園座	三勝半七	※「鍛新左衛門」。 ※竹本鍛太夫一行巡業(5月4〜14日、東海)の内。文楽座の若手による素浄瑠璃。 ※「新愛知」(5月1・3・8日)、『浄瑠璃雑誌』第312号、『御園座七十年史』に拠る。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
一九三二	昭和7	5/13~15	東京 東京劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中南部  吉弥、切土佐  吉兵衛・琴綱治)。 ※角書「三かつ/半七」。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
一九三二	昭和7	5/21~22	神戸 松竹劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中越名改め 南部  吉弥、切土佐  吉兵衛・琴綱治)。 ※角書「三かつ/半七」。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、娘お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
一九三二	昭和7	6/20	北新地演舞場	三勝	酒屋(陸路  吉房)。 ※花菱会。少女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第312・313号に拠る。	
一九三二	昭和7	7/2	綿業会館	(艷容女舞衣)	酒屋(源平  才六)。 ※三人会(竹本喜鳳太夫・竹本長尾太夫・豊竹和泉太夫)。 ※『浄瑠璃雑誌』第313号に拠る。	



「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△		△	
一九三二	昭和7	12/1	10/24	9/1~20	8/13~14
広島 寿座	東京 東京劇場				名古屋 御園座
(艷容女舞衣)	艷容女舞衣				艷容女舞衣
酒屋(南部  吉左・ツレ勝芳)。 ※「中国新聞」(11月27日の記事、11月23・30日の広告)、『浄瑠璃雜誌』第38号に拠る。	酒屋の段(土佐  吉兵衛・琴市松)。 ※角書「三勝/半七」。 ※素浄瑠璃。	酒屋の段(切鍛  新左衛門、後呂  叶・琴勝芳)。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	酒屋の段(南部  友衛門・琴団二郎)。 ※文楽若手連五人会(竹本相生太夫・豊竹呂太夫・豊竹つばめ太夫・竹本南部太夫・竹本小春太夫)巡業(8月1日↓下旬、近畿・東海)の内。 ※「新愛知」(8月9↓13・15↓16日)、『御園座七十年史』に拠る。	酒屋の段(南部  友衛門)。 ※「京都日出新聞」(7月29・31日・8月2↓3・5↓7日)に拠る。	酒屋(春香  新吉)。 ※『浄瑠璃雜誌』第34号に拠る。
		美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(文作)、舅半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。		半兵衛女房(玉七)、嫁お園(紋十郎)、宗岸(門造)。	美濃屋三勝(栄三郎)、茜屋半七(光之助)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(紋十郎)、親宗岸(門造)。
一九三二	昭和7	7/8	7/7		
					姫路 山陽座 (艷容女舞衣)

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三三	昭和8	6/23	高知 堀詰座	三勝	酒屋(土佐Ⅱ吉兵衛・琴市松)。 ※竹本土佐太夫一行巡業(6月22〜26日、高知)の内。25日にも同公演あり(琴は表記なし)。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	
一九三三	昭和8	6/1〜18	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(中南部Ⅱ吉弥、切土佐Ⅱ吉兵衛・琴市松)。 ※千穂楽は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(玉松)、半兵衛女房(玉七)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
一九三三	昭和8	2/1	松屋町鳳来館	(艷容女舞衣)	酒屋(敷島)。 ※竹本座巡業(2月1〜19日、大阪)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第320号に拠る。	(不明)
一九三二	昭和7	12/20	今治 和泉座	(艷容女舞衣)	酒屋(町Ⅱ歌助)。 ※竹本津太夫一行巡業(12月16〜24日、四国)の内。12月24日高松・大衆座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第319号、「海南新聞」(12月16日)、「香川新報」(12月20日)に拠る。	
一九三二	昭和7	12/13	四ツ橋文楽座	(艷容女舞衣)	酒屋(駒Ⅱ団六)。 ※英彦山国立公園運動寄附公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第319号に拠る。	
		12/12	長崎 みなみ座	前頁から続き	酒屋の段(南部Ⅱ吉左・琴勝芳)。 ※大阪文楽座若手連巡業(12月1日〜、広島・九州)の内。 ※「長崎日日新聞」(12月6〜13日)に拠る。	三勝(栄三郎)、半七(紋太郎)、半兵衛(玉市)、お園(紋十郎)、宗岸(門造)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△
一九三三	一九三三	一九三三	一九三三	一九三三
昭和8	昭和8	昭和8	昭和8	昭和8
11/25	9/9~20	7/24~25	7/14~	7/4~6
京都 六角会館	四ツ橋文楽座	神戸 松竹劇場	地方公演 (九州)	東京 東京劇場
三勝半七	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣
酒屋の段(鏡  新左衛門)。 ※慈善文楽会。 ※「大阪朝日新聞」京都版(11月24日)に拠る。	酒屋の段(つばめ  芳之助  南部  吉左  小春  綱右衛門  呂  重造)。 ※第2回文楽若手特別興行。	酒屋(南部)。 ※大阪文楽座人形浄瑠璃若手花形銷夏競演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第326号、「神戸新聞」(7月20~23日の記事、7月22日の広告)に拠る。	酒屋(津磨  綱延)。 ※竹本津太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第325号に拠る。	酒屋。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。 酒屋の段(中鏡  吉左、切土佐  吉兵衛・琴市松)。
	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(文作)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。	(不明)		美濃屋三勝(文作)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(玉松)、半兵衛女房(玉七)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三三	昭和8	12/7~9	東京 歌舞伎座	艷容女舞衣	酒屋の段(中相生  清二郎、切土佐  吉兵衛)。	美濃屋三勝(文作)、茜屋半七(玉幸)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
一九三四	昭和9	2/17~18	名古屋 御園座	艷容女舞衣	酒屋の段(南部  吉左・琴網延)。 ※豊竹古軼太夫一行巡業(2月4~19日、東海)の内。 ※「豊橋日日新聞」(2月1~9日)、「新愛知」(2月9~11・13~19日)、「浄瑠璃雑誌」第330号に拠る。	三勝(文之助)、半七(栄三郎)、半兵衛(瓢寿呂、母(多三郎)、お園(紋十郎)、宗岸(玉幸)。
一九三四	昭和9	2/21~26	京都 南座	艷容女舞衣	酒屋の段(南部  吉左  小春  団二郎・琴網延)。	美濃屋三勝(扇太郎)、茜屋半七(光之助)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
一九三四	昭和9	3/25	長浜 日比劇場	(艷容女舞衣)	酒屋(鍛  新左衛門)。 ※まこと改め竹本松栄太夫披露会。桐竹門造指導少女人形入。 ※「浄瑠璃雑誌」第332号に拠る。	
一九三四	昭和9	4/25	京都 上六人部小学 校	女舞衣三勝	酒屋(友路)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(4月23~27日・5月15日、大阪・京都)の内。竹本陸路太夫亡父米田亀蔵追善のため故人の縁故地方を巡業。 ※「浄瑠璃雑誌」第334号に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

	△	△	△	△	△
一九三四	昭和9	昭和9	昭和9	昭和9	昭和9
8/9~10	7/25	7/22~27	7/4~6	6/23~	5/24
東京 明治座	満州 大連検番ホ ル	神戸 松竹劇場	京都 南座	地方公演 (中国・東海)	山口下松町 大黒座
艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)
酒屋の段(南部  吉左・琴綱延)。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	酒屋(叶  友造・ツレ友太郎)。 ※竹本叶太夫一行巡業(7月25日~8月15日、満州)の内。8月3日奉天演芸館(三味線不明)、8月6日撫順公会堂(三味線不明)、8月11日中央銀行宿舍(三味線不明)で同公演あり。	酒屋。 ※『松竹百年史』に拠る。	酒屋の段(切鍛  新左衛門・琴綱延)。	酒屋(南部  吉弥・琴綱延)。 ※豊竹古鞆太夫一行巡業。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	酒屋(陸路  吉房)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(5月23~30日、山口)の内。5月29日小野田町・須恵座で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第334号に拠る。
美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(文作)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(多三郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。			美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(門造)、半兵衛女房(多三郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。	園(紋十郎)、宗岸(玉幸)。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三四	昭和9	9/14	東京 歌舞伎座前木 村屋別館	(艷容女舞衣)	酒屋(巴  文之助)。 ※鶴澤司好発起勉強会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
一九三四	昭和9	9/15	堀江演舞場本 館	(艷容女舞衣)	酒屋(駒  団六・琴弥二)。 ※花菱会。 ※『浄瑠璃雑誌』第335号に拠る。	
一九三四	昭和9	11/24	和歌山 紀国座	(艷容女舞衣)	酒屋(綴  新左衛門)。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第337号に拠る。	
一九三五	昭和10	2/24~26	神戸 松竹劇場	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※『神戸新聞』(2月24日の記事と広告)に拠る。	(不明)
一九三五	昭和10	5/4~	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(中相生  団六/重造  呂  叶、切土佐  吉兵衛)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(文作)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(政亀)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
一九三五	昭和10	6/2	福岡 大博劇場	艷容女舞衣	酒屋(小春  芳之助)。 ※豊竹古軼太夫一行巡業(5月28日~6月14日、山陽・九州)の内。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(栄三郎)、舅半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△			
一九三五	昭和10	11/4	堀江演舞場 〈竹本座〉	(艷容女舞衣)			
三勝／半七酒屋の段(喜仙松)。 ※『浄瑠璃雑誌』第343号に拠る。	一九三五	昭和10	10/26	御影公会堂	艷容女舞衣	酒屋の段(昼夜替 呂重造／つばめ猿糸)。 ※『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	美濃屋三勝(紋太郎)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(多三郎)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉蔵)。
一九三五	昭和10	8/23	浪花座	(艷容女舞衣)	酒屋(駒清二郎)。 ※文楽若手浄瑠璃会納涼浄瑠璃。 ※「大阪毎日新聞」(8月21日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。		
一九三五	昭和10	7/24~25	満州大連劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(つばめ猿糸)。 ※皇軍在満同胞慰問興行(7月23日~8月12日、満州)の内。7月31日奉天劇場、8月2日新京公会堂、8月9日~10日京城で同公演あり。 ※『浄瑠璃雑誌』第342号に拠る。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(栄三郎)、舅半兵衛(紋太郎)、半兵衛女房(玉徳)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(門造)。	
一九三五	昭和10	7/5~8	東京明治座	艷容女舞衣	酒屋の段(中相生清二郎、切土佐吉兵衛・琴市松)。 ※角書「三かつ／半七」。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(文作)、舅半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。	
一九三五	昭和10	6/15	和歌山和歌山市公会堂日本館	(艷容女舞衣)	酒屋(津磨綱平)。 ※竹本津太夫一座。 ※『浄瑠璃雑誌』第340号に拠る。		

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
西暦	一九三五	一九三五	一九三六	一九三六	一九三五	一九三五
年	昭和10	昭和11	昭和11	昭和11	昭和10	昭和10
月	12/5	2/16~18	2/4	2/5	2/3	12/20~21
劇場	東京 並木俱樂部	京都 南座	一の宮 花岡劇場 (新義座)	長野 菊田劇場	松本 建國座	神戸 松竹劇場
上演外題	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	艷容女舞衣
場割・備考	三勝酒屋の段(掛合)。 ※大日本義太夫因会秋季大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第345号に拠る。	酒屋の段(切駒  清二郎・琴猿若)。	三勝酒屋(南部  勝平)。 ※『浄瑠璃雑誌』第346号に拠る。	酒屋(綴)。 ※大阪文楽座一行巡業(2月2日)の内。 ※『信濃毎日新聞』(2月1日)に拠る。	酒屋の段。 ※『信濃毎日新聞』(1月30日)に拠る。	酒屋の段。 ※「神戸新聞」(12月16・19・21日の記事、12月17・20・22日の広告)に拠る。
主な人形役割	園(文五郎)。	美濃屋三勝(栄三郎)、茜屋半七(紋太郎)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。				



「艷容女舞衣」(上演年表)

一九三六	昭和11	10/11	釜山 釜山劇場 (新義座)	三勝半七	酒屋の段。 ※大阪文楽新義座巡業(10月10日〜12月、満州・九州・中国・四国)の内。乙女人形入。 ※「大阪朝日新聞」朝鮮版(10月6日)に拠る。	
一九三六	昭和11	9/4~6	京都 南座	艷容女舞衣	酒屋の段(中長尾  友衛門、切鋳  新左衛門)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(玉蔵)、半兵衛女房(政亀)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
一九三六	昭和11	7/28~30	東京 歌舞伎座	艷容女舞衣	酒屋の段(中和泉  重造、切土佐  吉兵衛・琴市松)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉市)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、娘お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
一九三六	昭和11	7/3~12	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(切駒  清一郎・琴猿若/重次郎)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(文作)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
一九三六	昭和11	5/3~	地方公演 (中国・九州)	艷容女舞衣	酒屋の段(切鋳  新左衛門・琴猿若。 ※竹本鋳太夫一行巡業。 ※『浄瑠璃雑誌』第349号に拠る。	三勝(光之助)、半七(文作)、半兵衛(門造)、半兵衛女房(小兵吉)、お園(文五郎)、宗岸(玉次郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三六	昭和11	12/7~8	上海 東 劇	(艷容女舞衣)	三勝酒屋(陸路  徳若)。 ※竹本陸路太夫一行巡業(12月7~11日、上海)の内。上海皇軍慰問公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第356号に拠る。	
一九三七	昭和12	1/21~23	北陽演舞場 (竹本座)	三勝半七	酒屋の段(春香  団弥)。 ※人形吉田徳三郎一座。 ※『浄瑠璃雑誌』第356・357号、「大阪朝日新聞」(1月19日)に拠る。	
一九三七	昭和12	1/27	盛岡 盛岡劇場 (新義座)	艷容女舞衣	三勝半七酒屋の段(南部  勝平)。 ※「岩手日報」(1月27・29日の記事、1月20・26~27日の広告)に拠る。	
		2/6	新潟 新潟劇場 (新義座)	三勝半七	酒屋の段。 ※「新潟新聞」(1月24日)に拠る。	
		2/16	徳島 徳島温泉劇場 (新義座)		酒屋の段(南部  勝平)。 ※「徳島毎日新聞」(2月9・15~18日)に拠る。	
		2/27	香川 上高瀬松竹座 (新義座)	艷容女舞衣	※新義座巡業(1月19日~3月中旬、東海・関東・東北・北陸・四国・中国)の内。乙女人形入。 ※「香川新報」(3月2日)に拠る。	
一九三七	昭和12	3/1~5	東京 小石川倶楽部	(艷容女舞衣)	酒屋(近衛  団童)。 ※第1回日本帝都因会奨励会。5日間演題毎日順廻り。 ※『浄瑠璃雑誌』第362号、「浄瑠璃時報」第177・178号に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

	△	△	△	△
一九三七	昭 和 12	昭 和 12	昭 和 12	昭 和 12
6/8~10	6/2	4/4	4/2	3/23~28
東京 明 治 座	平 聚 楽 館  (新義座)	八 日 市 大 正 座  (新義座)	東 京 飛 行 会 館	地 方 公 演  (中 国)
艷 容 女 舞 衣	(艷 容 女 舞 衣)	(艷 容 女 舞 衣)	(艷 容 女 舞 衣)	(艷 容 女 舞 衣)
酒屋の段(中源路改メ源  吉弥、切土佐  吉兵衛・琴市松)。	酒屋(南部  勝平)。 ※大阪新義座巡業(6月1日〜末、関東・東北・北海道・上越・北陸・東海)の内。乙女人形入。6月7日八戸・錦座、6月9日函館・吉野演芸場、6月12日秋田・秋田演舞場、6月13日湯沢・湯沢劇場、6月25日石動・末広座で同公演あり。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「函館新聞」(6月7〜8日の記事、6月4・6・7・9・11日の広告、「秋田魁新報」(6月10・12日の記事、6月12日の広告)に拠る。	酒屋(南部  勝平)。 ※大阪新義座巡業(4月4〜28日、東海・関東)の内。乙女人形入。4月9日郡上八幡劇場、4月14日岩村劇場、4月15日付知劇場で同公演あり。 ※「大阪朝日新聞」滋賀版(4月2日)、「文楽興行記録昭和篇」書入れに拠る。	酒屋(卯  猿蔵)。 ※日本帝都義太夫因会春季公演大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第362号、「浄瑠璃時報」第179号に拠る。	三勝酒屋(錠  新左衛門)。 ※竹本鍛太夫一行巡業。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「浄瑠璃雑誌」第359号に拠る。
美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉徳)、茜屋半兵衛(玉市)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(門造)。				(不 明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三七	昭和12	7/19	台北 栄座 (新義座)	(艷容女舞衣)	酒屋(南部  勝平)。 ※大阪新義座巡業(7月19日~8月2日、台湾・山陽)の内。桐竹門造指導乙女人形入。7月22日台南・宮古座、7月23日高雄座、7月25日虎尾交遊クラブ、7月28日基隆劇場、8月2日小郡・寿座(役割不明)で同公演あり。	
一九三七	昭和12	7/21~22	京都 南座	艷容女舞衣	酒屋の段(切鋸  新左衛門・琴猿若)。	美濃屋三勝(光之助)、茜屋半七(玉市)、舅半兵衛(玉蔵)、半兵衛女房(小兵吉、嫁お園(文五郎)、親宗岸(政亀))。
一九三七	昭和12	8/11	京都 朝日会館 (新義座)	三勝半七	酒屋の段(つばめ  猿糸)。 ※「京都日出新聞」(8月5日)に拠る。	
一九三七	昭和12	10/10~17	北陽演舞場	艷容女舞衣	酒屋の段(切鋸  新左衛門・琴吉蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『浄瑠璃時報』第192号では千鶴菜は15日。	美濃屋三勝(小兵吉)、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(政亀)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。
一九三七	昭和12	10/19	大紙倶楽部	(艷容女舞衣)	三勝酒屋(播路  団伊三)。 ※床世話救授会。 ※『浄瑠璃雑誌』第36号に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九三八	一九三八	一九三八	一九三八	一九三八	一九三八	一九三七
昭和13	昭和13	昭和13	昭和13	昭和13	昭和13	昭和12
4/1	3/15	3/14	3/4~13	2/9	1/27	10/27
北陽演舞場 (新義座)	岐阜 金華劇場 (新義座)	東京 鈴木演芸場		東京 鈴木演芸場	東京 東京劇場	浅草 並木俱樂部
艷容女舞衣	艷姿女舞衣	(艷容女舞衣)		(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣
酒屋の段(南部  勝平)。 ※『浄瑠璃雜誌』第369・370号、「大阪毎日新聞」(3月27日)に拠る。	三勝半七酒屋の段(南部  勝平)。 ※大阪新義座巡業(3月14~22日、東海・近畿)の内。 ※「岐阜日日新聞」(3月11~12・14~16日)に拠る。	酒屋(津賀  紋左衛門)。 ※第3回義太夫会。 ※『太棹』第94号に拠る。	酒屋(切駒  清三郎・琴友駒)。 ※角書「三かつ/半七」。	酒屋(巖香  扇七)。 ※第2回義太夫会。 ※『浄瑠璃雜誌』第368号、「太棹」第94号に拠る。	酒屋(呂  吉左)。 ※大阪文楽座義太夫若手花形特別公演。素浄瑠璃。 ※『浄瑠璃雜誌』第368号、「東京朝日新聞」(1月26日の広告)に拠る。	三勝/半七酒屋の段(杣  団八)。 ※日本帝都義太夫因会慰問会。 ※『浄瑠璃雜誌』第365・366号、「浄瑠璃時報」第193・194号、「太棹」第90号に拠る。
			美濃屋三勝(文作)、茜屋半七(玉市)、舅半兵衛(玉蔵)、半兵衛女房(政亀)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。			

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△
西暦	一九三八	一九三八	一九三八	一九三八	一九三八
年	昭和13	昭和13	昭和13	昭和13	昭和13
月	8/23	8/8~9	7/1~4	6/19	5/25
劇場	信州岩村田町 千曲錦三階ホ ール	京都 南座	東京 新橋演舞場	高知 堀詰座	東京 仁寿講堂 (新義座)
上演外題	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	艷容女舞衣	三勝半七	(艷容女舞衣)
場割・備考	酒屋(都ノ扇之助)。 ※義太夫大会。 ※『浄瑠璃雑誌』第37号に拠る。	酒屋の段(伊達ノ友衛門・友三郎)。 ※角書「三勝ノ半七」。 ※『浄瑠璃雑誌』第37号、『昭和の南座 資料編(上)』、『京都日日新聞』(8月8・10日)に拠る。	酒屋の段(切鍬ノ新左衛門・琴友三郎)。 ※角書「三勝ノ半七」。	酒屋(駒ノ清二郎・琴重次郎)。 ※『浄瑠璃雑誌』第37号、『高知新聞』(6月13・15・16・19・23日)に拠る。	酒屋(叶ノ観西翁)。 ※大阪新義座巡業(5月25日~6月上旬、東京・東海)の内。 ※『太棹』第94・95号、『東京朝日新聞』(5月13日)に拠る。
主な人形役割		半七(玉市)、お園(紋十郎)、宗岸(政亀)。	美濃屋三勝(栄三郎)、西屋半七(玉市)、舅半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉次郎)。		

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△
一九三九	一九三九	一九三九	一九三八	一九三八	一九三八
昭和14	昭和14	昭和14	昭和13	昭和13	昭和13
2/11~12	2/4~5	1/26	12/23	10/7	9/26~28
神戸 松竹劇場	京都 南座	東京 日本橋倶楽部	東京 日比谷公会堂	北海道 吉野演芸場 (新義座)	東京 明治座
艷容女舞衣	艷容女舞衣	女舞衣	(艷容女舞衣)	三勝半七	艷容女舞衣
酒屋の段(駒)。 ※角書「三勝／半七」。 ※「神戸新聞」(2月9・14・15日の記事、2月7日の広告)に拠る。	酒屋の段(切綴新左衛門)。 ※角書「三勝／半七」。	酒屋(都  猿威)。 ※東京南北座初春興行。 ※『浄瑠璃雑誌』第37号、『太棹』第10号、『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	酒屋(織  団六・清友)。 ※支那事変戦死者遺家族第3回感謝と慰安の夕。 ※『太棹』第100号に拠る。	酒屋(南部)。 ※大阪新義座巡業(9月中旬~10月下旬、東北・北海道)の内。 ※「函館新聞」(9月27日・10月8日の記事、10月4・9日の広告)に拠る。	酒屋の段(呂  叶  伊達  友衛門・琴清友)。 ※角書「三勝／半七」。
(不明)	三濃屋三勝(文之助)、茜屋半七(玉徳)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(小兵吉)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(門造)。	三勝(国三郎)、半七(東十郎)、半兵衛(高瀬弦之丞)、半兵衛女房(国若)、お園(池田三国)、宗岸(清三郎)。			美濃屋三勝(栄三郎)、茜屋半七(玉徳)、舅半兵衛(門造)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園(紋十郎)、親宗岸(小兵吉)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九三九	昭和14	2/18	神戸 神港倶楽部 〈新義座〉	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段(南部∥勝平)。 ※新浄瑠璃発表会。 ※『浄瑠璃雑誌』第377号に拠る。	
一九三九	昭和14	2/19	福岡 大博劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(駒)。 ※角書「三勝∥半七」。 ※文楽座一行巡業(2月17∥23日、広島・博多・山口)の内。2月17日広島・新天劇場(役割不明)で同公演あり。 ※「中国新聞」(2月13・17日の広告)、「九州日報」(2月19・21∥23・25日)に拠る。	(不明)
一九三九	昭和14	3/27~29	東京 明治座	艷容女舞衣	長町美濃屋の段(三勝∥相生・伯母∥伊勢∥仙糸)、酒屋の段(切駒∥清二郎・琴吉蔵)。 ※角書「三勝∥半七」。	美濃屋三勝(政亀)、茜屋半七(玉市)、舅半兵衛(門造)、半兵衛女房(玉七)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉蔵)。
一九三九	昭和14	4/2~	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	長町美濃屋の段(駒∥清二郎∥綴∥新左衛門)、酒屋の段(切綴∥新左衛門∥切駒∥清二郎・琴吉蔵)。 ※角書「三勝∥半七」。	美濃屋三勝(政亀)、茜屋半七(玉市)、舅半兵衛(門造)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園(紋十郎)、親宗岸(玉蔵)。
一九三九	昭和14	4/4	京城 朝日座 〈新義座〉	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段(陸路∥徳若)。 ※大阪新義座巡業(4月1∥12日、大陸)の内。乙女人形入。 ※「京城日報」(3月30日・4月2日の記事、4月5∥6日の広告)、『浄瑠璃雑誌』第378号に拠る。	



「艷容女舞衣」(上演年表)

△	一九四〇	昭和15	5/9	東京 日本橋俱樂部	(艷容女舞衣)	酒屋(弥国  寛三郎)。 ※日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第14号に抛る。	
△	一九三九	昭和14	12/1~	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(中千駒  団伊三  播路  新太郎、切鍛  寛治郎・琴綱延)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(栄三郎)、茜屋半七(文之助)、茜屋半兵衛(玉市)、半兵衛女房(政亀)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(小兵吉)。
△	一九三九	昭和14	6/23	東京 日本橋俱樂部	(艷容女舞衣)	美濃屋(朝見  芳太郎)。 ※日本帝都義太夫因会男子部春季大会。 ※『太棹』第10号、『浄瑠璃月報』第13号に抛る。	
△	一九三九	昭和14	5/21~22	名古屋 御園座	三勝半七	酒屋(駒  清二郎)。 ※「新愛知」(5月21日の記事と広告)に抛る。	(文五郎)、(玉蔵)。
△	一九三九	昭和14	5/3	東京 仁寿講堂 (新義座)	(艷容女舞衣)	酒屋(陸路  徳若)。 ※大阪新義座巡業(4月~5月9日、関東・東海)の内。乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第378号、『浄瑠璃時報』第231号に抛る。	
△	一九三九	昭和14	5/2	東京 日本橋俱樂部	艷容女舞衣	酒屋の段(浪花  猿平・松四郎)。 ※南北座春季公演。 ※『浄瑠璃雑誌』第379号、『太棹』第103号に抛る。	三勝(国五郎)、半兵衛(高瀬弦之丞)、お園(池田三国)。
△	一九三九	昭和14	4/24	北陽演舞場 (新義座)	(艷容女舞衣)	酒屋(陸路  徳若)。 ※桐竹門造指導乙女人形入。 ※『浄瑠璃雑誌』第379号に抛る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四〇	昭和15	9/21	東京 新橋演舞場	艷容女舞衣	酒屋の段(南部  重造・琴友三郎)。 ※「朝日新聞(東京)」(9月20~22・25~27日の広告)、「報知新聞」(9月20~27日の広告)、「東京日日新聞」(9月25日の記事、9月22日の広告)、「太棹」第118号、「浄瑠璃雑誌」第394・395号に拠る。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(文二郎)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(多三郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(政亀)。
一九四〇	昭和15	9	朝鮮・満州	艷姿女舞衣	酒屋の段(呂  吉左)。 ※角書「三勝/半七」。 ※文楽座大陸巡業。	
一九四〇	昭和15	10/8	東京 日本橋俱樂部	(艷容女舞衣)	酒屋(巖  猿蔵)。 ※日本義太夫因会男子部秋季大会。 ※『太棹』第119号、「浄瑠璃雑誌」第394号に拠る。	
一九四〇	昭和15	10/16	東京 日本橋俱樂部	艷容女舞衣	美濃屋(巴  猿喜知)、酒屋(都  糸造)。 ※東京浄瑠璃人形芝居第7回秋季報国公演。 ※『太棹』第119号、「浄瑠璃雑誌」第394号に拠る。	三勝(三春)、半七(高瀬弦之丞)、お園(池田三国)。
一九四〇	昭和15	12/7	神奈川 相模原第三陸軍病院	(艷容女舞衣)	酒屋(春香  扇之助)。 ※竹本春香太夫が慰問芸術家兵庫県代表として病院慰問。 ※『浄瑠璃雑誌』第396号に拠る。	
一九四一	昭和16	1/24	東京 日本橋俱樂部	(艷容女舞衣)	酒屋(近衛  松四郎)。 ※南北座第1回東京浄瑠璃人形芝居初春公演。 ※『太棹』第123号に拠る。	(不明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

	△	△	△	△	△	△
一九四二	一九四二	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一	一九四一
昭和17	昭和17	昭和16	昭和16	昭和16	昭和16	昭和16
5/1～	4/10	12/9～13	10/5	7/26	3/27	3/1～23
四ツ橋文楽座	浅草 並木倶楽部	東京 新橋演舞場	東京 国民新劇場	浅草 並木倶楽部	京都 朝日会館	四ツ橋文楽座
艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	(艷容女舞衣)	艷姿女舞衣	艷容女舞衣
酒屋の段(前/後 役毎日替 呂〓仙糸〓伊達〓勝平〓南部〓重造・ 琴綱延)。 ※角書「三勝〓半七」。	美濃屋(巴〓猿喜知)。酒屋(郡〓新造)。 ※日本義太夫因会春季大会。 ※『太棹』第134号、『浄瑠璃月報』第42号に拠る。	酒屋の段(前文字改め住〓喜代之助、後南部〓重造〓伊達〓勝平・ 琴綱延)。 ※角書「三勝〓半七」。	酒屋(浪花〓猿平・松四郎)。 ※南北座秋季公演。 ※『太棹』第130号に拠る。	酒屋(津磨〓友花)。 ※鶴澤綱八追善会。 ※『太棹』第127・128号に拠る。	酒屋の段(雛〓吉季)。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催、第10回春季文楽浄瑠璃の夕。 ※「京都日出新聞」(3月27日)に拠る。	酒屋の段(切文字〓新左衛門、駒〓清二郎・琴吉蔵)。 ※角書「三勝〓半七」。 ※千種楽は『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。
美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(紋太郎)、半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(小兵吉)、嫁お園(紋十郎)、舅宗岸(門造)。		美濃屋三勝(栄三郎)、茜屋半七(文作)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(政亀)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(門造)。	お園(池田三國)。			美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(紋太郎)、親半兵衛(門造)、半兵衛女房(政亀)、嫁お園(文五郎)、舅宗岸(小兵吉)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四二	昭和17	7/6~10	東京 新橋演舞場	艷容女舞衣	酒屋の段(前相生  吉五郎  織  団六、後 南部  重造  伊達  勝平・琴勝芳)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(栄三郎)、茜屋半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(小兵吉)、嫁お園(紋十郎)、父親宗岸(門造)。
一九四二	昭和17	8/2	福岡 大博劇場	(艷容女舞衣)	酒屋。 ※文楽座特別地方巡業(8月1~28日、九州)の内。 ※「福岡日日新聞」(7月19・26・30日・8月1日)、「浄瑠璃雑誌」第42号、「文楽芸術」第11号、「太棹」第137号に拠る。	(不明)
一九四二	昭和17	9/26	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	三勝/半七酒屋の段(呂  友花)。 ※日本因協会技芸奨励会第3回公演。素浄瑠璃。	
一九四二	昭和17	10/2	浅草 並木倶楽部	(艷容女舞衣)	美濃屋(朝見  和孝)。 ※義太夫古曲発表会。	
一九四二	昭和17	10/28	京都 朝日会館	(艷容女舞衣)	三勝半七酒屋の段(呂  仙※)。 ※国粹古典芸術鑑賞会主催、第13回秋季文楽浄瑠璃の夕。 ※「文楽芸術」第13号、「朝日新聞(大阪)」京都版(10月25~26日の広告)に拠る。	
一九四二	昭和17	11/25~27	東京 軍人会館	(艷容女舞衣)	三勝半七酒屋の段(南部  重造)。 ※人形浄瑠璃の夕。 ※「浄瑠璃雑誌」第45号、「文楽芸術」第13号、「太棹」第140号に拠る。	お園(文五郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

一九四二	昭和17	12/6~10	東京 新橋演舞場	艷容女舞衣	酒屋の段(住  喜代之助改め 吉三郎、南部  重造  伊達  勝平改め 喜左衛門・琴 綱延改め 錦糸)。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(栄三郎)、親半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(小兵吉)、娘おその(紋十郎)、舅宗岸(門造)。
一九四三	昭和18	10/1~	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(前 南部  重造  伊達  喜左衛門、後 伊達  喜左衛門  南部  重造・琴 寛子)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(亀松)、半兵衛女房(政亀)、娘お園(紋十郎)、親宗岸(門造)。
一九四三	昭和18	10/16	東京 すゝ本	(艷容女舞衣)	酒屋(都  新造)。 ※第2回義太夫錬成道場。 ※『浄瑠璃月報』第78・79号、『太棹』第149号に拠る。	
一九四三	昭和18	10/24	浅草 並木俱樂部	(艷容女舞衣)	酒屋(紅葉  猿三郎)。 ※日本義太夫因会男子部秋季大会。 ※『太棹』第149号、『浄瑠璃月報』第79号に拠る。	
一九四三	昭和18	12/15~21	東京 新橋演舞場	艷容女舞衣	酒屋の段(前住  絃平改め 吉二郎、後 南部  重造・琴 仙三郎)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(光造)、半兵衛女房(政亀)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
一九四四	昭和19	1/16	東京 寿々本	(艷容女舞衣)	酒屋(浪花  吉二郎)。 ※義太夫特選会。 ※『浄瑠璃月報』第83号に拠る。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四四	昭和19	6/1~	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(前五三〓綱造、切呂〓友衛門・高音錦糸〓新三郎)。 ※角書「三勝〓半七」。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(紋太郎)、舅半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(小兵吉)、嫁お園(光造)、親宗岸(亀松)。
一九四四	昭和19	10/5~7	名古屋 御園座	艷容女舞衣	酒屋の段(南部〓寛治郎)。 ※「御園座七十年史」、「中部日本新聞」(9月27日の記事、9月26〓30日・10月2〓4・6〓7日の広告)に拠る。	(不明)
一九四四	昭和19	11/1~6	神戸 松竹劇場	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※角書「三勝〓半七」。 ※「神戸新聞」(10月30日・11月4〓5日の広告)に拠る。	(不明)
一九四五	昭和20	6	地方公演 (四国・九州)	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
一九四五	昭和20	8/5~14	朝日会館	艷容女舞衣	酒屋の段(一日替り 南部〓寛治郎〓伊達〓喜左衛門)。 ※第2回復興公演。	三勝(亀夫)、半七(藤一)、半兵衛(玉徳)、母親(多三郎)、お園(光造)、宗岸(玉助)。
一九四五	昭和20	9/1~6	京都 南座	艷容女舞衣	酒屋の段(呂)。 ※「昭和の南座 資料編(上)」、「文楽人形の芸術」、「京都新聞」(8月27〓28・30〓31日・9月1・6〓7・12〓13日の広告)に拠る。	(不明)
一九四五	昭和20	11/16~21	神戸 八千代劇場	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※「神戸新聞」(11月16・21日の広告)に拠る。	(不明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△			
一九四六	昭和21	9/26	東京 帝国劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(古鞆Ⅱ清六・箏団六)。 ※帝劇芸術祭。
一九四六	昭和21	8/27	ラジオ放送	(艷容女舞衣)	※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」(8月27日)に抛る。
一九四六	昭和21	6/1~	地方公演 (中国・九州)	艷容女舞衣	酒屋(呂Ⅱ友衛門)。 ※6月21日佐賀・佐賀劇場は竹本伊達太夫が勤める(「西日本新聞」地方版(6月18~19日の広告)に抛る)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに抛る。
一九四六	昭和21	4/28~5/19	四ツ橋文楽座	艷容女舞衣	酒屋の段(中源Ⅱ清一郎、切古鞆Ⅱ清六・琴寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。 ※千龜樂は第一回若手向上会(『文楽興行記録昭和篇』「松竹百年史」)。
一九四六	昭和21	3/31~4/14	京都 南座	艷容女舞衣	酒屋の段(中源Ⅱ清一郎、切古鞆Ⅱ清六・琴寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。
一九四五	昭和20	12/18	三重カ 富田劇場	艷容女舞衣	三勝半七酒屋の段(南部Ⅱ寛治郎・高音団作)。 ※大阪文楽座巡業(12月12~21日、東海)の内。12月21日松阪市・松阪劇場(役割不明)で同公演あり。
					三勝(紋之助)、茜屋半七(紋昇)、半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(常次)、娘お園(文五郎)、親宗岸(門造)。
					美濃屋三勝(栄三郎)、茜屋半七(紋司)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
					美濃屋三勝(栄三郎)、茜屋半七(紋司)、茜屋半兵衛(門造)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
					三勝(紋之助)、半七(龜三)、半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(紋太郎)、お園(文五郎)、宗岸(光造)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月		劇場		上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四六	昭和21	11/24	11/25	京都座	宝塚大劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(織団六)。 ※邦楽鴨風会第1回公演。	お園(紋十郎)。
一九四六	昭和21	11/24~26		地方公演	(島根)	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段(伊達喜左衛門)。 ※「島根新聞」(11月20日の記事、11月22・24日の広告)に拠る。	美濃屋三勝(玉男)、茜屋半七(紋昇)、舅半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
一九四六	昭和21	12/5~23	12/24	四ツ橋文楽座		艷容女舞衣	酒屋の段(松清二郎・琴錦糸)。 ※第3回若手向上会。	美濃屋三勝(文五郎)、茜屋半七(玉市)、舅半兵衛(玉枝)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園(栄三郎)、親宗岸(玉男)。
一九四七	昭和22	2		地方公演		艷容女舞衣	酒屋の段(切呂友衛門)。 ※角書「三勝半七」。	三勝(紋之助)、半七(亀三)、舅半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(光造)。
一九四七	昭和22	3/24~25		奈良楽座		艷容女舞衣	酒屋の段(切呂友衛門)。 ※角書「三勝半七」。	美濃屋三勝(和夫)、茜屋半七(玉枝)、舅半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(紋太郎)、娘お園(文五郎)、親宗岸(門造)。

△



一九四七	昭和22	8/31~9/7	名古屋 中京劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(切織改め綱団六改め弥七)。 ※角書「三勝／半七」。 ※「一日日延べ」(『文楽興行記録昭和篇』)。	三勝(玉男)、半七(亀三)、 茜屋半兵衛(玉徳)、半兵衛女 房(紋太郎)、嫁お園(文五 郎)、親宗岸(玉市)。
一九四七	昭和22	7/26	和歌山 和歌山会館	艶容女舞衣	酒屋の段(伊達⇨喜左衛門)。 ※角書「三かつ／半七」。 ※和歌山会館柿葺落し(『文楽因会三和会興行年表』)。	美濃屋三かつ(玉男)、茜屋半 七(玉枝)、舅半兵衛(玉徳)、 半兵衛女房(兵次)、嫁お園 (文五郎)、親宗岸(玉市)。
一九四七	昭和22	7/4~11	京都 南座	艶容女舞衣	酒屋の段(前住⇨広助、後伊達⇨喜左衛門)。	美濃屋三勝(玉男)、茜屋半七 (紋昇)、茜屋半兵衛(兵次)、 半兵衛女房(紋太郎)、嫁おそ の(亀松)、親宗岸(玉徳)。
一九四七	昭和22	6/30	愛媛 八幡浜劇場	三勝半七艶容女 舞衣	酒屋の段(伊達⇨喜左衛門・琴重造)。 ※四国巡業(6月25~30日)の内。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れ、「愛媛新聞」(6月23・26日の広告)に拠る。	(不明)
一九四七	昭和22	6/25~	地方公演 (中国)	艶容女舞衣	酒屋の段(切呂⇨友衛門)。	美の屋三勝(和夫)、茜屋半七 (紋之助)、舅半兵衛(亀三)、 半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園 (文五郎)、親宗岸(玉徳)。
一九四七	昭和22	5/3~27	四ツ橋文楽座	艶容女舞衣	酒屋の段(中越名⇨勝太郎、切織改め綱団六改め弥七)。 ※角書「三勝／半七」。 ※豊竹山城少掾受領披露・織太夫改め竹本綱太夫・団六改め竹沢弥七 襲名披露興行。 ※千鶴菜は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(紋之助)、茜屋半 七(玉枝)、舅半兵衛(玉徳)、 半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園 (紋十郎)、親宗岸(門造)。

「艷容女舞衣」（上演年表）

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四七	昭和22	9/14~19	東京 東京劇場	艷容女舞衣	酒屋の段（切織改め綱Ⅱ団六改め弥七・琴寛弘）。 ※角書「三勝／半七」。 ※芸術祭参加・掾位受領披露。	美濃屋三勝（玉男）、茜屋半七（亀三）、舅半兵衛（玉市）、半兵衛女房（紋太郎）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（玉助）。
一九四七	昭和22	12/2~3	姫路 姫路公会堂	艷容女舞衣	酒屋の段（綱Ⅱ弥七）。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝（紋昇）、茜屋半七（玉男）、舅半兵衛（玉市）、舅女房（浜次）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（玉助）。
一九四七	昭和22	12/17	ラジオ放送	（艷容女舞衣）	酒屋（雛）。 ※「朝日新聞（大阪）」「読売新聞」（12月17日）に拠る。	（不明）
一九四八	昭和23	3	地方公演 （九州）	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※25日間。 ※「西日本新聞」地方版（3月3・11・21日の広告）、「熊本日日新聞」（3月3日の広告）、「長崎日日新聞」（3月13日の記事と広告）、「文楽」（昭和23年4月号）に拠る。	（不明）
一九四八 ～ 一九五五	昭和23 ～ 昭和30	4/5	協和会館 （三和会）	艷姿女舞衣	三勝半七酒屋の段（前つばめⅡ燕三、後若Ⅱ喜左衛門）。 ※大阪文楽鑑賞会。	三勝（紋二郎）、半七（紋弥）、半兵衛（紋市）、半兵衛女房（紋之丞）、嫁おその（紋十郎）、親宗岸（辰五郎）。
一九四八	昭和23	7/16	浜松 江東劇場	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※東海巡業（7月13～16日）の内。 ※「浜松民報」（7月21日の記事、7月16日の広告）に拠る。	（不明）

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	△	△	△	△	△	△
一九四九	一九四八	一九四八	一九四八	一九四八	一九四八	一九四八
昭和24	昭和23	昭和23	昭和23	昭和23	昭和23	昭和23
1/12	12/14~15	12/4	12/3~4	10/2~24	7/30	7/19~20
ラジオ放送 (組合)	京都 福知山市公会 堂	東京 芝美術会館	高知 堀詰 座	中 座	ラジオ放送	岡山 岡山劇場
(艷容女舞衣)	三勝半七	(艷容女舞衣)	艷容女舞衣	艷容女舞衣	(艷容女舞衣)	三勝半七
※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」(1月12日)に拠る。 酒屋(伊達)。	※「京都新聞」(12月11日の広告)に拠る。 酒屋の段。	※東京における山城会発会。 ※「幕間」(昭和24年1月号)、「芝居手帳」(昭和24年1月号)に拠る。	※「高知新聞」(12月1・4日の広告)に拠る。 三勝半七酒屋の段。	酒屋の段(切綱彌七)。 ※角書「三勝半七」。 ※千龍楽は『松竹百年史』に拠る。 ※竹本綱太夫の代役で豊竹つばめ太夫の日あり(『文楽興行記録昭和篇』)。	酒屋(伊達)。 ※「朝日新聞(大阪)」「読売新聞」(7月30日)に拠る。	酒屋(相生)。 ※山陽巡業の内。 ※「山陽朝報」(7月21日の記事、7月18日の広告)、「山陽新聞」(7月17日の広告)に拠る。
			(不明)	三勝(玉男)、半七(紋之助)、 半兵衛(玉徳)、半兵衛女房 (紋太郎)、おその(文五郎)、 宗岸(亀松)。		(不明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四九	昭和24	1/16	浜松 江東劇場 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段。 ※1月18日愛知県知多市・喜楽座で同公演あり。 ※「浜松民報」(1月15日の広告)、チラシに拠る。	(不明)
一九四九	昭和24	3/3~	地方公演 (九州) 〈組合〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(前住  吉兵衛、後伊達  喜左衛門)。	三勝(紋三郎)、半七(作十郎)、半兵衛(玉徳)、半兵衛女房(紋太郎、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(国五郎)。
一九四九	昭和24	5/1~6	東京 有楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前浜  清友、後相生  松之輔・琴清友)。 ※角書「三かつ/半七」。	美濃屋三勝(和夫)、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁おその(光造)、親宗岸(玉助)。
一九四九	昭和24	5/28	滋賀 大通寺 〈因会〉	(艷容女舞衣)	酒屋(綱  弥七)。 ※山城を聴く会。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	
一九四九	昭和24	7/21~22	京都 祇園会館 〈組合〉	(艷容女舞衣)	酒屋の段(住  吉兵衛、伊達  喜左衛門)。	三勝(紋三郎)、半七(紋二郎)、半兵衛(作十郎)、半七母(紋太郎)、おその(紋十郎)、宗岸(国五郎)。
一九四九	昭和24	7	地方公演 (関東・東海・四国) 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段。 ※11日間。 ※『三和会公演控』、「岐阜タイムス」(7月18・21日の広告)、「東海夕刊」(7月21日の広告)、「中部日本新聞(岐阜版)」(7月21日の広告)に拠る。	(不明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	一九四九	昭和24	11/1	ラジオ放送 (因会)	(艷容女舞衣)	酒屋(綱)。 ※「朝日新聞(大阪)」、「毎日新聞(大阪)」(11月1日)に拠る。	
			10/18	大今治市 劇 (組合)	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段。 ※柿葺落公演。 ※播州路・四国巡業の内。10月23日徳島・歌舞伎座で同公演あり。 ※「愛媛新聞」(10月16日の広告)、「三和会公演控」、「文案因会三和会興行記録」、「徳島民報」(10月22日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九四九	昭和24	10/14	姫路 姫路市公会堂 (組合)	三勝半七	酒屋の段(つばめ)。 ※「姫路新聞」(10月8日)に拠る。	(不明)
△	一九四九	昭和24	10/1	常盤座 (組合)	三勝半七	酒屋の段。 ※「紀伊民報」(9月23日・10月2日)、「紀伊新聞」(9月29日)、「三和会公演控」に拠る。	(不明)
△	一九四九	昭和24	9/28~29	紀伊田辺 場 (組合)	三勝半七	酒屋の段(前住吉兵衛、後伊達喜左衛門)。 ※新宮市警察署庁舎落成記念興行。 ※「紀南新聞」(9月27日の広告)に拠る。	
△	一九四九	昭和24	9/17	岡崎 岡崎劇場 (組合)	三勝半七	酒屋の段。 ※東海巡業の内。9月15日の公演予定が、荷物延着のため17日に延期。 ※「東海新聞(岡崎)」(9月15、17日の広告)に拠る。	(不明)
	一九四九	昭和24	8~9	地方公演 (東北・北海道) (因会)	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(前相生松之輔、後綱弥七・琴清友)。 美濃屋三勝(和夫)、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、娘おその(光造)、親宗岸(玉助)。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九四九	昭和24	12/1~8	東京 三越劇場 〈組合〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前つばめ  勝太郎、後伊達  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(紋之助)、半七(作十郎)、半兵衛(紋昇)、半兵衛女房(紋太郎)、おその(紋十郎)、宗岸(玉徳)。
一九四九	昭和24	12/1	広島 〈因会〉	艷容女舞衣	(綱  弥七)。	三勝(和夫)、半七(光次)、舅半兵衛(玉市)、女房(兵次)、娘おその(光造)、親宗岸(玉助)。
一九四九	昭和24	12/10	桐生 東宝劇場 〈組合〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前つばめ  勝太郎、後伊達  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。 ※「上毛新聞」(12月8日の広告)に拠る。	三勝(紋之助)、半七(作十郎)、半兵衛(紋昇)、半兵衛女房(紋太郎)、おその(紋十郎)、宗岸(玉徳)。
一九四九	昭和24	12/24	浪華屋百貨店 〈組合〉	三勝半七	酒屋の段(伊達  喜左衛門)。 ※「大阪日日新聞」(12月19日)に拠る。	(不明)
一九四九	昭和24	12/25	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋(浜  清友)。 ※文楽デー。 ※「大阪日日新聞」(12月27日の記事、12月24日の広告)に拠る。	(不明)
一九五〇	昭和25	1/2~20	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(中浜  八造、切山城少掾  弥七・琴清友)。 ※角書「三勝/半七」。 ※千穠楽は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	一九五〇	昭和25	4/12	富山 富山座 (組合)	(艷容女舞衣)	酒屋。 ※高知・北陸巡業(11日間)の内。4月18日金沢市・北国第一劇場で同公演あり。 ※「富山新聞」(4月6・12日の広告)、「北陸夕刊」(4月10日の広告)、「石川新聞」(4月16日の記事、4月17日の広告)、「北国新聞」(4月11・17日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九五〇	昭和25	3/4~8	東京 新橋演舞場 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(中浜Ⅱ八造、切山城少掾Ⅱ弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
△	一九五〇	昭和25	2/22	豊橋 豊橋大劇場 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(中浜Ⅱ八造、切山城少掾Ⅱ弥七)。 ※角書「三勝/半七」。 ※「東三新聞」(2月8日)に拠る。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
△	一九五〇	昭和25	2/11~12	兵庫 洲本劇場 (組合)	三勝半七	酒屋。 ※淡路芸能文化協会主催、洲本市制10周年記念行事。 ※「神戸新聞」淡路版(2月10日)に拠る。	(不明)
△	一九五〇	昭和25	2/11~14	名古屋 御園座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(中浜Ⅱ八造、切山城少掾Ⅱ弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
△	一九五〇	昭和25	2/4~5	枚方 パーク (因会)	(艷容女舞衣)	酒屋の段(中浜Ⅱ八造、切山城少掾Ⅱ弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋司)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五〇	昭和25	4/29	枚方パーク (因会)	(艷容女舞衣)	酒屋(松  清友)。 ※人形遣ひの名人吉田文五郎を讀えるよい子の会。 ※『幕間』(昭和25年6月号)に拠る。	お園(文五郎)。
一九五〇	昭和25	5/13	帯広 帯広劇場 (組合)	三勝半七	酒屋の段。 ※東北・北海道巡業(13日間)の内。 ※「北海道新聞(札幌市内)」(5月12日の広告)に拠る。	(不明)
一九五〇	昭和25	7/6~	地方公演 (東北・信越) (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(切山城少掾  弥七)。 ※角書「三勝  半七」。 ※豊竹山城少掾休演、代役未詳。	美濃屋三勝(文五郎)、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁おその(栄三)、親宗岸(玉助)。
一九五〇	昭和25	7/13~14	岐阜市 真砂座 (組合)	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※名古屋・岐阜巡業(10日間)の内。 ※「岐阜タイムス」(7月7・12日の広告)、「中部日本新聞」岐阜版(7月7・12日の広告)、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に拠る。	(不明)
一九五〇	昭和25	8/4~15	四ツ橋文楽座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(前静  八造、後松  豊助・琴寛弘  前静  新三郎、後雛  友十郎・琴寛弘)。 ※角書「三勝  半七」。 ※若手奮闘納涼興行。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(光次)、半兵衛(常次)、半兵衛女房(登一)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(兵次)。
一九五〇	昭和25	8/7	倉敷 松竹劇場 (組合)	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段。 ※中国巡業の内。 ※「山陽新聞」「夕刊岡山」(8月7日の広告)、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に拠る。	(不明)



一九五〇	昭和25	10/21	兵庫 兵庫県立加古川東高等学校 講堂 〈三和会〉	三勝半七艶容女舞衣	酒屋の段。	(不明)
一九五〇	昭和25	9/28	田辺市 常盤座 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※和歌山巡業の内。9月5日の予定が台風により順延。 ※「紀伊民報」(9月6日の記事、9月20・28日の広告)に拠る。	(不明)
一九五〇	昭和25	9/12~	地方公演 (関東・北陸) 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(伊達Ⅱ喜左衛門)。 ※角書「三勝／半七」。	三勝(紋二郎)、半七(作十郎)、半兵衛(斉次郎)、母親(豊三郎)、おその(紋十郎)、宗岸(玉徳)。
一九五〇	昭和25	9/7	和歌山 湯浅町警察署 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(前つばめⅡ叶太郎、後伊達Ⅱ喜左衛門)。	(不明)
一九五〇	昭和25	8/19~26	三越 劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(前つばめⅡ勝太郎／錦糸、後伊達Ⅱ喜左衛門)。 ※8月19日ラジオ放送(朝日新聞(大阪)、「毎日新聞(大阪)」(8月19日)に拠る)。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、女房(紋太郎)、おその(紋十郎)、宗岸(玉徳)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五〇	昭和25	11/25	鹿児島市 日本劇場 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※11月24日熊本・歌舞伎座、11月27日長崎市・西日本会館(人形役割不明)、11月29日直方市・多賀劇場(人形役割不明)、11月30日小倉・小倉劇場、12月2日延岡市・新世界劇場で同公演あり。 ※「南日本新聞」(11月24・26日の記事、11月24日の広告、「熊本日日新聞」(11月19・21日)、「夕刊西日本新聞」(11月24日)、「西日本新聞」北九州版(11月29日の広告)、「日向日日新聞」(12月7日)に拠る。 (綱Ⅱ弥七)。 ※九州・山陰巡業の内。 ※「時事新聞」(12月1日の記事、11月28日の広告)に拠る。	お園(文五郎)。
一九五一	昭和26	11/28	佐世保 佐世保市公会堂 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(前住Ⅱ友衛門、後伊達Ⅱ喜左衛門)。 三勝半七 酒屋の内。 ※「静岡新聞」(1月31日の広告)に拠る。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(年一)、母親(紋太郎)、おその(紋十郎)、宗岸(玉徳)。
一九五一	昭和26	2/6	静岡 静岡市公会堂 (三和会)	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段。 ※東海巡業の内。 ※「静岡新聞」(1月31日の広告)に拠る。	(不明)
一九五一	昭和26	3/10~16	地方公演 (北陸) (三和会)	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段。 ※「三和会公演控」、「富山新聞」(3月8・10日の広告)、「北日本新聞」(3月6・7日の広告)、「北国新聞」(3月7・15日の広告)、「石川新聞」(3月4・14日の広告)、「福井新聞」(3月16日の記事、3月6・15日の広告)に拠る。	(不明)

一九五一	昭和26	4/1	名古屋 御園座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※藤浪紡績株式会社阪和久米田工場新築記念。床は素人義太夫。 ※場所不明。	美濃屋三勝（文昇、茜屋半七（光次）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（辰造）、嫁お園（栄三）、親宗岸（玉市）。
一九五一	昭和26	4/3~10	能勢 中谷公民館 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段（切綱〓弥七・高音寛弘）。 ※角書「三勝〓半七」。 ※落成祝賀会。	美濃屋三勝（玉男、茜屋半七（栄三）、舅半兵衛（兵次）、半兵衛女房（登一）、嫁お園（文五郎）、親宗岸（辰造）。
一九五一	昭和26	4/14~16	ラジオ放送 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋（松）。 ※「朝日新聞（大阪）」、「毎日新聞（大阪）」（4月25日）に抛る。	三勝（紋二郎、半七（紋昇）、半兵衛（作十郎）、女房（駒三郎）、おその（紋十郎）、宗岸（玉徳）。
一九五一	昭和26	5/1	滋賀 真盛座 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段（伊達〓喜左衛門）。 ※北陸巡業の内。5月2日大垣市・日本劇場（役割不明）、5月6日松本市・松本市第二公民館、5月19日仙台・仙台劇場で同公演あり。 ※「滋賀新聞」（4月29日の広告）、「東海夕刊」（5月1〓2日の広告）、「岐阜タイムス」（5月1日の広告）、「信濃毎日新聞」（5月6〓7日の記事、5月1日の広告）、「河北新報」（5月13日の記事、5月18日の広告）、「東北日報」（5月19日の広告）、「夕刊とうほく」（5月14日の広告）、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に抛る。	

「艶容女舞衣」（上演年表）

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五一	昭和26	6/1~6	東京 三越劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前つばめ  勝太郎、後伊達  喜左衛門)。 ※桐竹紋昇改め二代桐竹勘十郎襲名披露。	美濃屋三勝(紋二郎)、茜屋半七(紋弥)、茜屋半兵衛(勘十郎)、女房(紋之丞)、嫁おその(紋十郎)、おその父宗岸(玉徳)。
一九五一	昭和26	6/4~	地方公演 (北陸・北海道 ・東北・信越) 〈因会〉	艷姿女舞衣	三勝半七 酒屋の段(切山城少掾  弥七)。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(辰造)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(亀松)。
一九五一	昭和26	7/20~22	名古屋 松坂屋ホール 〈三和会〉	三勝半七	酒屋の段(伊達  喜左衛門)。 ※「夕刊新東海」(7月19日)、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に拠る。	お園(紋十郎)。
一九五一	昭和26	7/28	岐阜 岐阜市公会堂 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(伊達  喜左衛門)。 ※東海巡業の内。7月24日横浜市・神奈川体育館で同公演あり。	おその(紋十郎)。
一九五一	昭和26	8/17~21	京都 南座 〈因会〉	艷容女舞衣	※「東海夕刊」(7月24・29日の記事、7月24日の広告)、「岐阜タイムス」(7月28・29日の記事、7月24日の広告)、「神奈川新聞」(7月21日)、「三和会公演控」、「文楽因会三和会興行記録」に拠る。 酒屋の段(中河内  清友、切山城少掾  弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋司改め玉五郎)、茜屋半七(光次)、半兵衛(兵次)、半兵衛女房(辰造)、娘おその(文五郎)、親宗岸(玉市)。

一九五一	昭和26	12/18~21	名古屋 御園座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(中静  豊助、切山城少掾  弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉市)。
一九五一	昭和26	11/27	愛媛宇和 〈因会〉	艶容女舞衣	※四国巡業の内。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(辰造)、娘おその(文五郎)、親宗岸(亀松)。
一九五一	昭和26	11/24	松山 国際劇場 〈因会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(前河内  清友、後松  豊助)。 ※「愛媛新聞」(11月23日の広告)に拠る。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(辰造)、娘おその(文五郎)、親宗岸(亀松)。
一九五一	昭和26	9/29	神戸 神戸商工会議所 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(中宮  錦糸、切山城少掾  弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(辰造)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
一九五一	昭和26	9/8~27	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(中宮/長子  錦糸、切山城少掾  弥七・寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。 ※9月30日ラジオ放送(朝日新聞(大阪)「読売新聞」(9月30日)に拠る)。 ※鶴沢寛弘はラジオ放送の典拠に拠る。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(辰造)、お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
一九五一	昭和26		三和会 〈三和会〉	艶容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(前つばめ  勝太郎、切伊達  喜左衛門)。 ※日程・場所不明。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五二	昭和27	3/10~12	四ツ橋文楽座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋(松  松之輔・寛弘。 ※本公演終演後、記録映画「文楽人形劇の妙技」(文部省・松竹)のため「酒屋」のお園のサワリを撮影。文五郎ほか(『文楽興行記録昭和篇』)。 ※「朝日新聞(東京)」(3月11日)、「幕間」(昭和27年4月号)に拠る。	お園(文五郎)。
一九五二	昭和27	3/24	金沢 北国第一劇場 (三和会)	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(伊達  喜左衛門)。 ※北陸巡業(3月21~29日)の内。 ※「北国新聞」(3月24日の記事、3月17・19・24日の広告)、「新夕刊」(3月21日)に拠る。	半七(紋二郎)、半兵衛(駒三郎)、お園(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
一九五二	昭和27	7/1~4	東京 新橋演舞場 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(中河内  豊助、切山城少掾  清二郎改め藤蔵・高音寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(紋太郎)、お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
一九五二	昭和27	8/6~10	京都 南座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(前相生  松之輔、後松  清六・高音寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
一九五二	昭和27	9/12~21	中座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(中河内  鱗糸改め喜八郎、切山城少掾  藤蔵・高音寛弘)。 ※近松門左衛門生誕三百年記念特別公演。 ※野沢鱗糸改め野沢喜八郎、大正9年以来出座(『文楽興行記録昭和篇』)。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(玉市)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△	一九五三	昭和28	1/11	広島 広島市児童文 化会館 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※「中国新聞」(1月10日の記事、1月8・10日の広告)に拠る。	(不明)
△	一九五三	昭和28	1/11・15・18	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(雛  吉三郎)。 ※第2回義太夫教室。 ※チラシに拠る。	
	一九五二	昭和27		〈因会〉	(艷容女舞衣)	酒屋(松  錦糸)。 ※今橋クラブ春季総会懇親会。 ※日程・場所不明。	(文雀、(文昇)。
	一九五二	昭和27	12/8~12	東京 新橋演舞場 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前 雛  清八、後 松  清六)。 ※角書「三勝/半七」。 ※近松門左衛門生誕三百年記念文楽祭。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七 (文昇、舅半兵衛(兵次)、半 兵衛女房(常次)、嫁お園(文 五郎)、親宗岸(玉助)。
	一九五二	昭和27	11/15~20	三越 劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(前 源  叶太郎、後 伊達  喜左衛門)。	三勝(紋二郎)、半七(紋寿)、 舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房 (紋之丞)、おその(紋十郎)、 親宗岸(辰五郎)。
△	一九五二	昭和27	11/3	徳島 歌舞伎座 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※九州・四国巡業(19日間)の内。10月30日高知市・中央公民館、10月31日高知県後免町・日の出座で同公演あり。 ※「徳島民報」(11月2日の広告)、「徳島新聞」(11月2・4日)、「高知新聞」(10月15・29・30日の広告)に拠る。	(不明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五三	昭和28	3/27~29	神戸 織維会館 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(中河内  豊助、切山城少掾  藤蔵・琴寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文昇)、半七(玉昇)、 茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女 房(紋太郎)、嫁おその(文五 郎)、親宗岸(玉助)。
一九五三	昭和28	3/30	兵庫広畑 旧青年学校 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(中静  喜八郎、切山城少掾  藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七 (玉昇)、舅半兵衛(兵次)、半 兵衛女房(紋太郎)、嫁おその (文五郎)、親宗岸(玉助)。
一九五三	昭和28	4/4	敦賀市 国際劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※4月5日福井市・国際劇場、4月6日富山・富山座、4月7日金沢 市・北国第一劇場で同公演あり。 ※「福井新聞」(4月1・3・5日の広告)、「富山新聞」(4月4・6 日の広告)、「北国新聞」(4月5日の記事、4月7日の広告)に拠る。	(不明)
一九五三	昭和28	4/20	呉市 本願寺会館 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前つばめ  勝太郎、後伊達  喜左衛門)。 ※北陸・山陽・九州巡業の内。4月22日八幡市・花月劇場、4月28日 大牟田市・太陽館、4月30日熊本市・歌舞伎座、5月3日宇部市・記 念会館で同公演あり。	三勝(紋二郎)、半七(紋寿)、 半兵衛(紋市)、母親(紋之 丞)、おその(紋十郎)、宗岸 (辰五郎)。
一九五三	昭和28	4/23	広島市 横川旭劇場 〈因会〉	三勝半七艷容女 舞衣	酒屋の段。 ※「中国新聞」(4月21日の記事、4月15・22日の広告)に拠る。	(不明)



△

一九五三	昭和28	7/8	ラジオ放送 〈三和会〉	(艷容女舞衣)	酒屋の段(つばめ〓勝太郎)。 ※「朝日新聞(大阪)」「読売新聞」(7月8日)に抛る。	
一九五三	昭和28	7/2~	地方公演 (関東・信越) 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切綱〓弥七)。 ※角書「三勝〓半七」。	美濃屋三勝(光次)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(淳造)、嫁お園(亀松)、親宗岸(玉助)。
一九五三	昭和28	6/29~	地方公演 (関東・東北・信越) 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(伊達〓喜左衛門)。	三勝(紋二郎)、半七(紋寿)、半兵衛(紋市)、母親(紋之丞)、お園(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
一九五三	昭和28	6/9~14	東京 三越劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前つばめ〓市治郎、後伊達〓喜左衛門)。 ※角書「三勝〓半七」。	三勝(紋二郎)、半七(作十郎)、半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、お園(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
一九五三	昭和28	5/3	山口 宇部市記念会館 〈三和会〉	(艷容女舞衣)	酒屋(つばめ〓勝太郎、伊達〓喜左衛門)。	三勝(紋二郎)、半七(紋寿)、半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、お園(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
一九五三	昭和28	5/2~24	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(松〓松之輔・琴寛弘)。 ※角書「三勝〓半七」。 ※土・日・祭日の昼の部のみ上演。千穂楽は「毎日新聞(大阪)」(5月23日)に抛る。	美濃屋三勝(光次)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(淳造)、嫁お園(亀松)、親宗岸(玉助)。

## 「艷容女舞衣」(上演年表)

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五三	昭和28	10/28~11/3	四ッ橋文楽座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(紋太郎)、嫁お園(文五郎)、親宗岸(玉助)。
一九五三	昭和28	9/26~27	四ッ橋文楽座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※人形浄瑠璃素義会公演。	三勝(玉昇)、半七(光次)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(亀松)、親宗岸(玉市)。
一九五三	昭和28	9/23	鳥取黒座 (三和会)	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(伊達  喜左衛門)。	三勝(紋二郎)、半七(紋寿)、舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五三	昭和28	9/7	木材会館 (因会)	(艷容女舞衣)	酒屋(綱  弥七)。 ※『文楽興行記録昭和篇』書入れに拠る。	(栄三)。
一九五三	昭和28	8/21~30	中座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(切綱  弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文昇)、半七(光次)、舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房(常次)、娘おその(文五郎)、親宗岸(玉市)。
一九五三	昭和28	8/7~16	京都南座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(中河内  喜八郎、切山城少掾  藤蔵・琴寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文雀)、半七(光次)、半兵衛(淳造)、半兵衛女房(常次)、おその(文五郎)、宗岸(玉市)。

一九五三	昭和28	11/6	長野市 長野商工会館 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(伊達⇨喜左衛門)。 ※東海道巡業(10月2日、8日間)の内。 ※「信濃毎日新聞」(10月19日の広告)に拠る。	(紋十郎)。
一九五三	昭和28	11/8~19	地方公演 (北海道) 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切綱⇨弥七)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七 (文昇)、舅半兵衛(兵次)、半 兵衛女房(紋太郎)、嫁おその (文五郎)、父親宗岸(玉助)。
一九五四	昭和29	1/25~27	名古屋 御園座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切綱⇨弥七・高音寛弘)。	三勝(玉昇)、半七(文昇)、 舅半兵衛(紋太郎)、半兵衛女 房(常次、娘おその(文五 郎)、親宗岸(玉市)。
一九五四	昭和29	3/1~6	神戸 仏教会館 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前つばめ⇨勝太郎、後伊達⇨喜左衛門)。 ※八代野沢吉兵衛・鶴沢友衛門追善興行。	三勝(紋二郎、半七(紋弥)、 半兵衛(紋市)、母親(紋之 丞)、おその(紋十郎)、宗岸 (辰五郎)。
一九五四	昭和29	3/29	門司 稲荷座 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(つばめ⇨燕三、切若⇨喜左衛門)。 ※中国・九州巡業(3月20日~4月11日)の内。	三勝(紋二郎、半七(紋七/ 紋弥)、半兵衛(紋市)、半兵 衛女房(紋之丞)、嫁おその (紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五四	昭和29	4/2	神戸 第一楼 〈因会〉	(艷容女舞衣)	三勝半七 酒屋の段(松⇨清友)。	(不明)

## 「艷容女舞衣」(上演年表)

「艷容女舞衣」(上演年表)

△

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五四	昭和29	6/11~15	東京 新橋演舞場 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切相生〓松之輔、後松〓清六・高音清好)。 ※角書「三勝〓半七」。	三勝(文昇)、半七(玉昇)、 茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女 房(紋太郎)、嫁おその(文五 郎)、親宗岸(玉市)。
一九五四	昭和29	8/21	奈良 奈良市庁別館 〈三和会〉	艷容女舞衣	※「大和タイムス」(8月19日)に拠る。	
一九五四	昭和29	8/24~30	三越劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切若〓綱造)。 ※角書「三勝〓半七」。	美濃屋三勝(紋二郎)、茜屋半 七(紋七)、舅半兵衛(紋市)、 半兵衛女房(紋之丞)、娘おそ の(紋十郎)、親宗岸(辰五 郎)。
一九五四	昭和29	8/31	三越劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(呂賀〓燕三)。 ※角書「三勝〓半七」。 ※第1回若手勉強会。	三勝(勘之助)、半七(小紋)、 舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房 (紋之丞)、嫁おその(紋二 郎)、親宗岸(紋四郎)。
一九五四	昭和29	9/17~26	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前津〓寛治郎、後伊達〓八造・琴寛弘)。 ※角書「三勝〓半七」。	みのや三勝(文昇)、茜屋半七 (玉昇)、舅半兵衛(淳造)、半 兵衛女房(常次)、娘お園(文 五郎)、親宗岸(玉市)。

一九五四	昭和29	12/10~18	東京 三越劇場 〈三和会〉	艷姿女舞衣	酒屋の段(前つばめ〓喜左衛門、後源〓燕三)。 ※角書「三勝/半七」。 ※『文楽興行記録昭和篇』の人物役割は、三勝(紋寿)、半七(紋七)、お園(紋十郎)、他同じ。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(紋市)、女房(紋之丞)、お園(紋之助)、宗岸(辰五郎)。
一九五四	昭和29	11/28	東京 東横ホール 〈合同〉	艷姿女舞衣	酒屋の段(若〓綱造・琴勝平)。 ※第9回文部省芸術祭文楽合同素浄瑠璃会。 ※鶴沢綱造休演、鶴沢燕二代演(『文楽興行記録昭和篇』、『幕間』昭和30年1月号)。	
一九五四	昭和29	11/25	大槻能楽堂 〈合同〉	艷姿女舞衣	酒屋の段(大阪)。「毎日新聞(大阪)」(10月20日)に抛る。	
一九五四	昭和29	10/20	ラジオ放送 〈因会〉	艷姿女舞衣	酒屋の段(伊達)。	
一九五四	昭和29	10/10~15	名古屋 新歌舞伎座 〈三和会〉	艷姿女舞衣	酒屋の段(若〓綱造)。 ※角書「三勝/半七」。 ※日程は『文楽興行記録昭和篇』に抛る。『三和会公演控』『文楽因会三和会興行記録』は10月16~22日とする。	三勝(紋二郎)、半七(紋七)、舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、娘おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五四	昭和29	10/6~	地方公演 (四国・九州・中国) 〈因会〉	艷姿女舞衣	酒屋の段(前津〓寛治郎、後伊達〓八造)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(亀松)、親宗岸(玉市)。
一九五四	昭和29	9/30~10/4	四ツ橋文楽座 〈因会〉	艷姿女舞衣	酒屋の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大顔合せ特別公演。	みのや三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房(常次)、娘お園(前〓文五郎、後〓玉五郎)、親宗岸(玉市)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五四	昭和29	12/17~19	神戸 八千代座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(伊達Ⅱ八造)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文雀)、半七(玉昇)、 茜屋半兵衛(淳造)、半兵衛女 房(紋太郎)、嫁おその(栄 三)、親宗岸(玉市)。
一九五四	昭和29	12/18	三越劇場 (因会)	(艷容女舞衣)	酒屋の段(山城少掾)。 ※大阪市民文化祭賞受賞記念三越名人会。 ※「大阪日日新聞」(12月15日)に拠る。	
一九五五	昭和30	3/4~13	京都 南座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(伊達Ⅱ八造)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文昇)、半七(玉昇)、 舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房 (常次)、娘おその(文五郎)、 親宗岸(玉助)。
一九五五	昭和30	3/23	山形 山形市公民館 (因会)	三勝半七 艷容 女舞衣	酒屋の段(山城少掾藤蔵)。 ※東海・東北巡業(3月16日)の内。3月16日静岡・静岡市公会堂 (三味線不明)、3月18日青森・三本木映画劇場(三味線不明)、3月19 日青森市・国際劇場(三味線不明)、3月20日盛岡市・岩手県公会堂 (三味線不明)、3月21日秋田市・スポーツセンター山王体育館(三味 線不明)で同公演あり。 ※「山形新聞」(3月12・24日の記事、3月21日の広告)、「静岡新聞」 (3月11日の広告)、「東奥日報」(3月16日)、「岩手日報」(3月3・9 ・20~21日)、「秋田魁新報」(3月20日の記事と広告)に拠る。	その(文五郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

一九五五	昭和30	10/16	福岡 大博劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(前つばめ  喜左衛門、後若  燕三)。	三勝(紋二郎)、半七(紋七)、 舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、 親宗岸(辰五郎)。
一九五五	昭和30	10/4~23	地方公演 (東海・近畿・ 四国・九州・ 中国) 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前籬  吉三郎、後伊達  八造・高音团二郎)。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	三勝(文雀)、半七(光次)、 茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(前  文五郎、後  玉五郎)、親宗岸(玉市)。
一九五五	昭和30	9/15~18	神戸 仏教会館 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前源  叶太郎、切若  綱造)。	三勝(紋二郎)、半七(紋七)、 半兵衛(作十郎)、女房(国秀)、おその(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
一九五五	昭和30	8/17~21	京都 南座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前津  寛治郎、後松  清六・清好)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文昇)、半七(玉昇)、 茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(亀松)、 親宗岸(玉助)。
一九五五	昭和30	7/20~25	東京 新橋演舞場 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前相生  松之輔、後松  清六・清好)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文昇)、半七(玉昇)、 茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(亀松)、 親宗岸(玉助)。
一九五五	昭和30	5/1~20	地方公演 (九州) 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前津  寛弘、切綱  弥七・高音团二郎)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(光次)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、娘お園(栄三)、親宗岸(玉助)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五五	昭和30	11/26~29	東京 新橋演舞場 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切山城少掾  藤蔵・琴寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(玉昇)、茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女房(淳造)、嫁おその(文五郎)、親宗岸(玉助)。
一九五六	昭和31	1/1~25	道頓堀文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切綱  弥七)。 ※角書「三勝/半七」。 ※新築初春興行(道頓堀文楽座柿葺落し)。 ※千鶴楽は「朝日新聞(大阪)」(1月25日の広告)に拠る。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(玉昇)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
一九五六	昭和31	1/5	ラジオ放送 〈因会〉	(艷容女舞衣)	酒屋。 ※「朝日新聞(大阪)」、「毎日新聞(大阪)」、「読売新聞(大阪)」(1月5日)に拠る。	
一九五六	昭和31	2/26	兵庫 姫路市公会堂 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(つばめ  喜左衛門)。	三勝(紋寿)、半七(紋七)、半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、おその(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
一九五六	昭和31	3/3~4/27	地方公演 (中国・九州・東海) 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切若  喜左衛門)。	美濃屋三勝(紋二郎)、茜屋半七(紋七)、舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五六	昭和31	5/4	静岡 静岡市公会堂 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※関東・東北巡業の内。 ※「静岡新聞」(4月24日)に拠る。	



一九五六	昭和31	10/6~14	東京 三越劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切若〓綱造)。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、 半兵衛(紋市)、女房(国秀)、 おその(紋十郎)、宗岸(辰五 郎)。
一九五六	昭和31	9/30	東京 名古屋 御園座 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(綱〓弥七)。 ※第7回邦楽名人大会。	
一九五六	昭和31	9/28	下関 東宝劇場 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切源〓叶太郎)。 ※九州巡業(9月18日、11日間)の内。	三勝(紋寿)、半七(勘十郎)、 半兵衛(作十郎)、半兵衛女房 (国秀)、おその(紋之助)、宗 岸(辰五郎)。
一九五六	昭和31	6/18	宇都宮市 栃木会館ホ ル 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段。 ※「下野新聞」(6月17、19日の記事、6月16日の広告)に拠る。	
一九五六	昭和31	6/17~21	東京 東横ホール 〈因会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切綱〓弥七・団二郎)。 ※角書「三勝〓半七」。	三勝(文雀)、半七(玉昇)、 舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房 (常次)、娘お園(文五郎)、親 宗岸(玉市)。
一九五六	昭和31	10/6~14	地方公演 (信越・北陸) 〈三和会〉	艶容女舞衣	酒屋の段(切つばめ〓勝太郎)。 ※10月8日富山県・高岡市公会堂の配役は次の通り。(前つばめ〓喜 左衛門、後源〓燕三)。また人形役割も、お園(紋之助)とする(「富 山新聞」(10月5・7日の記事、10月3・7日の広告)に拠る)。	三勝(紋寿)、半七(紋七)、 舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房 (紋之丞)、嫁おその(紋十 郎)、親宗岸(辰五郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五六	昭和31	11/15	新潟 佐渡新穂村 〈三和会〉	艷容女舞衣	※「佐渡新報」(11月14、15日)に拠る。	
一九五六	昭和31	11/21	兵庫 洲本市人形会館 〈三和会〉	三勝半七	※「産経新聞」淡路版(11月20・23日)に拠る。	
一九五六	昭和31	12/11~16	東京 東横ホール 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前津  寛治、後松  清六・琴清好)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文雀)、半七(玉昇)、 茜屋半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(文五郎)、 親宗岸(玉市)。
一九五七	昭和32	2/9~14	名古屋 毎日ホール 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前津  寛治、後伊達  藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※吉田文五郎難波掾受領披露。	三勝(文昇、半七(東太郎)、 舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(淳造)、嫁おその(文五郎事、 難波掾)、親宗岸(玉助)。
一九五七	昭和32	2/10	愛知 森町公民館 〈三和会〉	三勝半七艷容女舞衣	酒屋の段(つばめ  喜左衛門)。	三勝(紋寿)、半七(紋弥)、 舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房(紋之丞)、嫁おその(紋十郎)、 親宗岸(辰五郎)。
一九五七	昭和32	2/16~17	神戸 神戸新聞会館 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前津  寛治、後伊達  藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※吉田難波掾受賞記念。	三勝(文昇、半七(東太郎)、 舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(淳造)、嫁お園(文五郎事、 難波掾)、親宗岸(玉助)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△			△			
一九五七	昭和32	5/26	滋賀会館 〈三和会〉	大津市 艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(切つばめ)喜左衛門。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、 舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女 房(紋之丞)、嫁おその(紋十 郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五七	昭和32	5/4~28	道頓堀文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(伊達改め、土佐)藤蔵。 ※角書「三勝/半七」。 ※七世土佐大夫襲名披露、三世津大夫・六世土佐大夫十七回忌追善。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七 (東太郎)、舅半兵衛(兵次)、 半兵衛女房(常次)、嫁おその (文五郎)事 難波掾、親宗岸 (玉市)。
一九五七	昭和32	5/2	伊勢会館 〈三和会〉	艶姿女舞衣	酒屋の段。 ※「伊勢新聞」(4月30日)に拠る。	
一九五七	昭和32	4/28	兵庫 兵庫県立加古 川東高等学校 〈三和会〉	三勝半七艶容女 舞衣	酒屋の段(切源)叶太郎。	舅半兵衛(紋之丞)、半兵衛女 房(国秀)、おその(紋之助)、 宗岸(辰五郎)。
一九五七	昭和32	4/13	ラジオ放送 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(伊達)藤蔵。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」(4月13日)に拠る。	
一九五七	昭和32	4/11~	地方公演 (中国) 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前相生)豊助、後綱)弥七・琴団(二郎)。 ※角書「三勝/半七」。 ※吉田難波掾受領記念。	三勝(文雀)、茜屋半七(東太 郎)、舅半兵衛(淳造)、半兵 衛女房(常次)、嫁おその(前   文五郎)事 難波掾、後  玉五 郎)、親宗岸(玉市)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五七	昭和32	6/22~24	山口 山陽バルブ株 式会社岩国工 場  (因会)	三勝半七艷容女 舞衣	酒屋の段(津  寛治、伊達改め、土佐  藤蔵)。 ※伊達大夫改め七世竹本土佐大夫襲名披露。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(前  文五郎事、難波掾、後  玉五郎)、親宗岸(玉助)。
一九五七	昭和32	6/25	直方 国際劇場  (因会)	(艷容女舞衣)	酒屋(津  寛治、土佐  藤蔵)。 ※七世竹本土佐大夫襲名披露。 ※役割は『文楽興行記録昭和篇』に、その他は『松竹百年史』に拠る。	(不明)
一九五七	昭和32	6/27~	地方公演 (北海道・東北 ・関東・東海)  (三和会)	艷容女舞衣	酒屋の段(切つばめ  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(紋寿)、半七(紋弥)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(紋之丞)、嫁おその(紋之助)、親宗岸(辰五郎)。
一九五七	昭和32	7/18	仙台 仙台市公会堂  (三和会)	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※文楽教室。	
一九五七	昭和32	8/20~25	京都 南座  (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(伊達改め、土佐  藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※竹本土佐大夫襲名披露。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(文雀)、舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房(常次)、娘おその(文五郎事、難波掾)、親宗岸(玉市)。

一九五七	昭和32	10/7~	地方公演 (静岡・船橋) (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(伊達改め土佐  藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文昇、茜屋半七 玉昇、舅半兵衛(兵次)、半 兵衛女房(常次)、娘おその (亀松)、親宗岸(玉市)。
一九五七	昭和32	10/13~	地方公演 (近畿・中国) (三和会)	艷容女舞衣	酒屋の段(切つばめ  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(紋寿)、半七(紋弥)、 舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女 房(紋之丞)、嫁おその(紋之 助)、親宗岸(辰五郎)。
一九五七	昭和32	12/14~15	神戸 神戸新聞会館 (三和会)	艷容女舞衣	酒屋の段(前源  叶太郎、後つばめ  喜左衛門)。 ※桐竹紋十郎紫綬褒章受章・初代紋十郎五十年忌記念。	三勝(紋二郎)、半七(紋寿)、 舅半兵衛(紋市)、半兵衛女房 (国秀)、嫁おその(紋十郎)、 親宗岸(辰五郎)。
一九五八	昭和33	2/7~11	東京 読売ホール (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(前相生  松之輔、後土佐  藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(玉五郎)、茜屋半 七(玉男)、舅半兵衛(淳造)、 半兵衛女房(常次)、嫁おその (文五郎事 難波掾)、親宗岸 (玉市)。
一九五八	昭和33	3/8	ラジオ放送 (因会)	(艷容女舞衣)	酒屋(山城少掾)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」「(3月8日)に拠る。	
一九五八	昭和33	4/16~19	淡路・徳島 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(切土佐  藤蔵)。 ※角書「三勝/半七」。 ※日程は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七 玉幸)、舅半兵衛(兵次)、半 兵衛女房(常次)、嫁おその (亀松)、親宗岸(玉市)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五八	昭和33	10/14~23	地方公演 (九州) (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(伊達改め土佐  藤蔵)。※角書「三勝/半七」。※日程は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(玉昇)、茜屋半兵衛(淳造)、半兵衛女房(玉米)、嫁おその(亀松)、親宗岸(玉市)。
一九五八	昭和33	10/5~18	地方公演 (関東・信越) (三和会)	艷容女舞衣	酒屋の段(切つばめ  喜左衛門)。※角書「三勝/半七」。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五八	昭和33	7/10~17	京都 南座 (合同)	艷容女舞衣	酒屋の段(前相生  松之輔、後土佐  藤蔵)。※角書「三勝/半七」。※因会三和会初合同公演。	三勝(玉五郎)、半七(玉男)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(兵次)、娘お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
一九五八	昭和33	6/28	東京 三越劇場 (三和会)	三勝半七	酒屋の段(つばめ  喜左衛門)。※第10回三越名人会。	
一九五八	昭和33	6/15	足利市 興国化学講堂 (三和会)	艷容女舞衣	酒屋の段(前つばめ  喜左衛門、後源  叶太郎)。※角書「三勝/半七」。	三勝(勘之助)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、おその(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
一九五八	昭和33	5/26~6/10	地方公演 (東北・北陸) (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(切土佐  藤蔵)。※角書「三勝/半七」。※日程は『松竹百年史』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(亀松)、親宗岸(玉市)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

一九五九	昭和34	1/27~28	道頓堀文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※人形浄瑠璃女義太夫大合同公演。	美濃屋三勝(文昇、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(亀松)、親宗岸(玉助)。
一九五九	昭和34	1/26	道頓堀文楽座 〈合同〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前織の  勝平、後織部  清好・琴清治)。 ※文楽三業養成会主催、文楽人形浄瑠璃若手勉強発表会。	美濃屋三勝(勘之助)、茜屋半七(一暢)、茜屋半兵衛(玉之助)、半兵衛女房(東太郎)、娘お園(紋二郎)、親宗岸(紋弥)。
一九五九	昭和34	1/1~25	道頓堀文楽座 〈合同〉	艷容女舞衣	酒屋の段(親宗岸 若・嫁お園 松・美濃屋三勝 南部・茜屋半七 織の・おつう 小松・半兵衛女房 雛・茜屋半兵衛 相生  清六・琴清治)。 ※松竹経営50年祭記念。	美濃屋三勝(紋之助)、茜屋半七(東太郎)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(常次)、嫁おその(亀松)、親宗岸(辰五郎)。
一九五八	昭和33	12/11~19	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(切つばめ  喜左衛門)。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五八	昭和33	11/30	徳島市立新町 小学校体育館 〈三和会〉	艷姿女舞衣	酒屋の段(切つばめ  喜左衛門)。 ※豊竹若大夫芸道60年記念。	三勝(勘之助)、半七(紋寿)、しゅうと半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九五九	昭和34	2/13~16	東京 新橋演舞場 〈合同〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前相生  松之輔、後土佐/松  清六・高音清好)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(紋之助)、茜屋半七(紋二郎)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(亀松)、親宗岸(辰五郎)。
一九五九	昭和34	2/21~3/4	地方公演 (関東) 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切つばめ  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五九	昭和34	3/25~28	地方公演 (東北) 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(切つばめ  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五九	昭和34	3/28	神戸 国際会館 〈因会〉	酒屋	※NHK邦楽名流大会。 (綱  弥七)。	
一九五九	昭和34	4/17	ラジオ放送 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(綱  弥七)。 ※「朝日新聞(大阪)」「毎日新聞(大阪)」「読売新聞(大阪)」(4月17日)に拠る。	

△



「艷容女舞衣」(上演年表)

一九五九	昭和34	6/10~12	名古屋 御園座 〈合同〉	艷容女舞衣	酒屋の段(親宗岸・若・嫁お園・松・半兵衛女房・和佐・娘おつう・津の子・美濃屋三勝・織の・茜屋半七・古住・舅半兵衛・相生・前松之輔・後清六・高音清好)。 ※角書「三勝／半七」。 ※鶴沢清六休演(『御園座七十年史』)。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(紋二郎)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(亀松)、親宗岸(玉助)。
一九五九	昭和34	6/18	今橋クラブ・ホール 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(土佐・藤蔵)。 ※映画「日本の宝」特別試写会。	(亀松)。
一九五九	昭和34	6/19~28	地方公演 (中国・九州) 〈三和会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段(切つばめ・喜左衛門)。	三勝(紋二郎)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。
一九五九	昭和34	11/19~30	道頓堀文楽座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前津・寛治、後土佐・藤蔵・高音藤二郎)。 ※角書「三勝／半七」。 ※吉田難波掾文化功労者受章記念。 ※竹本津太夫休演の日あり、竹本織の太夫が代演(『日本経済新聞(大阪)』(11月22日)、「日刊スポーツ」(11月27日)に抛る)。	美濃屋三勝(文昇、茜屋半七(小玉)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、嫁お園(玉五郎)、親宗岸(玉助)。
一九六〇	昭和35	2/21~25	東京 新橋演舞場 〈合同〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前相生・松之輔、後土佐・清六・高音清好)。 ※角書「三勝／半七」。	美濃屋三勝(東太郎)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(国秀)、娘お園(前・難波掾、後・亀松)、親宗岸(辰五郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六〇	昭和35	3/1~8	京都 南座 〈合同〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前津  寛治、後土佐  藤蔵・高音藤二郎)。 ※角書「三勝/半七」。 ※紋之助改め豊松清十郎襲名披露。芸術院会員吉田難波掾文化功労者受章記念興行。	美濃屋三勝紋之助改め清十郎、西屋半七(東太郎、舅半兵衛(兵次)、半兵衛女房(国秀)、娘おその(紋十郎)、親宗岸(辰五郎))。
一九六〇	昭和35	4/11	毎日ホール 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(綱  弥七)。 ※一九六〇年大阪芸術祭開幕披露芸能祝典。 ※さわり難波掾(『文楽興行記録昭和篇』)。	お園(難波掾)。
一九六〇	昭和35	4/19	東京 新橋演舞場 〈阿派〉	艷容女舞衣	酒屋の段(つばめ  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。 ※綱弥会・西東会共催文楽素浄瑠璃の会。	三勝(二暢)、半七(文昇、半兵衛(玉昇)、半兵衛女房(玉米)、おその(玉五郎)、親宗岸(玉市))。
一九六〇	昭和35	9/27	松坂会館 〈因会〉	艷容女舞衣	三勝半七 酒屋の段。 ※有楽会素義会。	三勝(二暢)、半七(玉幸)、半兵衛(玉男)、半兵衛女房(玉米)、お園(玉五郎)、親宗岸(玉市)。
一九六〇	昭和35	10/4~12	地方公演 (中国・四国) 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前津  団六、後松  徳太郎)。 ※『昭和35年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。 ※『文楽興行記録昭和篇』には「四日より中国・四国・九州巡業」とある。	三勝(二暢)、半七(玉幸)、半兵衛(玉男)、半兵衛女房(玉米)、お園(玉五郎)、親宗岸(玉市)。
一九六〇	昭和35	10/16	兵庫 黒井三峰庵 〈因会〉	(艷容女舞衣)	酒屋(南部  錦糸)。 ※『吉田文雀ノート』に拠る。	お園(文雀)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

一九六〇	昭和35	12/20~23	東京 新橋演舞場 〈合同〉	艷容女舞衣	酒屋の段(松改め春子、松之輔・高音、団二郎)、道行霜夜の千日(三勝、南部・半七、織の、吉三郎・徳太郎・新三郎・団二郎・藤二郎)。 ※鷲谷樗風、補訂、西亭、作曲、花柳芳次郎、振付、大塚克三、装置(「道行霜夜の千日」)。 ※竹本春子、大夫、襲名披露狂言。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(東太郎)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁お園(一日替、亀松/栄三)、親宗岸(玉市)。
一九六一	昭和36	3/25~4/15	地方公演 (東海、関東・信越) 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(つばめ、喜左衛門)。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝(紋寿)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、お園(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。
一九六一	昭和36	4/8~11	京都 南座 〈因会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前相生、重造、松改、春子、松之輔・高音、藤二郎)。 ※角書「三勝/半七」。 ※松大夫改、三目、竹本春子、大夫、襲名披露。	美濃屋三勝(文昇、茜屋半七(玉昇)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(兵次)、娘お園(前、栄三、後、難波掾)、親宗岸(玉助)。
一九六一	昭和36	4/27	大原町 大原劇場 〈三和会〉	(艷容女舞衣)	酒屋の段(文字、勝太郎、源、叶太郎)。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝(勘之助)、半七(紋弥)、半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、お園(紋十郎)、宗岸(辰五郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六一	昭和36	6/9~18	地方公演 (関東・東北・北陸) 〈合同〉	艷容女舞衣	酒屋の段(前文字  勝太郎、後春子  松之輔。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝(文雀)、半七(東太郎)、 半兵衛(玉市)、女房(兵次)、 お園(亀松)、宗岸(玉助)。
一九六一	昭和36	6/24	横浜 共立学園 〈三和会〉	(艷容女舞衣)	酒屋(つばめ  喜左衛門)。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝(勘之助)、半七(紋弥)、 半兵衛(作十郎)、半兵衛女房 (国秀)、おその(紋十郎)、宗 岸(辰五郎)。
一九六一	昭和36	7/3~9	東京 三越劇場 〈三和会〉	艷容女舞衣	酒屋の段(中小松  勝平、切つばめ  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(清十郎)、半七(紋弥)、 半兵衛(作十郎)、半兵衛女房 (国秀)、おその(紋十郎)、宗 岸(辰五郎)。
一九六一	昭和36	7/12~22	地方公演 (関東・東北) 〈三和会〉	(艷容女舞衣)	酒屋の段(つばめ  喜左衛門)。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝(清十郎)、半七(紋弥)、 半兵衛(作十郎)、半兵衛女房 (国秀)、お園(紋十郎)、宗岸 (辰五郎)。
一九六一	昭和36	10/6~21	地方公演 (東海・関東) 〈三和会〉	(艷容女舞衣)	酒屋の段(南部  市治郎)。 ※竹本源太夫休演につき竹本南部太夫代演(『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る)。 ※『昭和36年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。『文楽興行記録昭和篇』には「配役は三業共、三、四月巡業、七月巡業と同じ」とある。	三勝(紋寿)、半七(紋弥)、 半兵衛(作十郎)、半兵衛女房 (国秀)、お園(紋十郎)、宗岸 (辰五郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

一九六二	昭和37	12/8	名古屋 愛知文化講堂 (因会)	(艷容女舞衣)	酒屋の段(中 大隅  吉三郎、前相生  重造、後土佐  藤蔵・琴寛弘)。 ※『昭和37年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝(紋寿)、半七(玉幸)、 半兵衛(兵次)、半兵衛女房 (常次)、お園(栄三)、宗岸 (玉市)。
一九六二	昭和37	10/20~24	京都 南座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(中 織の  徳太郎、切土佐  藤蔵・琴寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。	三勝(文昇)、半七(玉昇)、 半兵衛(兵次)、半兵衛女房 (淳造)、お園(亀松)、宗岸 (玉市)。
一九六二	昭和37	7/1~8	道頓堀文楽座 (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(切 土佐  藤蔵・琴寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文昇、茜屋半七 (東太郎)、舅半兵衛(兵次)、 半兵衛女房(淳造)、嫁おその (亀松)、親宗岸(玉助)。
一九六二	昭和37	3/26~29	御堂会館 (三和会)	艷容女舞衣	酒屋の段(前 小松  燕三、切つばめ  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。 ※桐竹紋二郎改メ三世吉田襄助襲名披露、初代野沢喜左衛門・二代鶴 沢寛治郎・四代野沢勝市追善。	美濃屋三勝(紋二郎改メ 襄 助)、半七(勘之助)、舅半兵 衛(作十郎)、半兵衛女房(国 秀)、嫁おその(清十郎)、親 宗岸(辰五郎)。
一九六二	昭和37	2/12~16	地方公演 (東京) (三和会)	(艷容女舞衣)	酒屋の段(つばめ  喜左衛門)。 ※日程は『昭和37年度人形浄瑠璃因協会年報』に拠る。	三勝(紋寿)、半七(紋弥)、 半兵衛(作十郎)、半兵衛女房 (国秀)、お園(紋十郎)、宗岸 (辰五郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六三	昭和38	2/8~13	東京 東横ホール (因会)	艷容女舞衣	酒屋の段(中大隅  吉三郎、前相生  重造、後土佐  藤蔵・琴寛弘)。 ※角書「三勝/半七」。 ※東京お名残自主公演。 ※文楽協会設立に伴う因会最期の自主公演(『文楽興行記録昭和篇』)。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(玉幸)、半兵衛(兵次)、半兵衛女房(常次)、お園(亀松)、宗岸(玉助)。
一九六三	昭和38	5/11~23	地方公演 (中国・九州)	艷容女舞衣	酒屋の段(つばめ  喜左衛門)。 ※角書「三勝/半七」。 ※文楽協会誕生記念地方公演。 ※日程は『文楽協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	三勝(叢助)、茜屋半七(紋弥)、舅半兵衛(常次)、半兵衛女房(兵次)、お園(紋十郎)、親宗岸(玉市)。
一九六三	昭和38	6/8・14~21	地方公演 (東海・信越)	艷容女舞衣	酒屋の段(土佐  勝太郎・団二郎)。 ※文楽協会誕生記念地方公演。 ※日程は『文楽協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	三勝(小玉)、茜屋半七(紋弥)、舅半兵衛(淳造)、半兵衛女房(国秀)、おその(栄三/亀松)、親宗岸(辰五郎)。
一九六三	昭和38	10/2~12	地方公演 (四国・九州)	艷容女舞衣	酒屋の段(春子  松之輔)。 ※文楽協会誕生記念地方公演。 ※日程は『文楽協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(常次)、お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
一九六四	昭和39	1/15~29	地方公演 (東海・関東)	艷容女舞衣	酒屋の段(織  藤蔵、春子  吉三郎改め 吉兵衛)。 ※日程は『文楽協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	三勝(文昇)、半七(紋弥)、半兵衛(国秀)、半兵衛女房(兵次)、お園(亀松)、宗岸(辰五郎)。

一九六四	昭和39	12/4~12	地方公演 (北九州・山陽)	艷容女舞衣	酒屋の段(春子  吉兵衛・琴寛弘)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、お園(紋十郎)、親宗岸(玉市)。
一九六四	昭和39	11/23~29	地方公演 (関東)	艷容女舞衣	酒屋の段(若  重造・琴勝之輔)。 ※11月29日は東京・大妻講堂で大学歌舞伎研究連盟主催公演。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(養助)、茜屋半七(玉男)、舅半兵衛(玉市)、半兵衛女房(国秀)、お園(紋十郎)、親宗岸(玉助)。
一九六四	昭和39	9/26~27	名古屋 愛知文化講堂	艷容女舞衣	酒屋の段(若  喜左衛門)。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(常次)、嫁お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
一九六四	昭和39	4/4~7	地方公演 (関東・信越)	艷容女舞衣	酒屋の段(春子  松之輔・琴団二郎)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	三勝(文昇)、茜屋半七(作十郎)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、お園(栄三)、親宗岸(玉市)。
一九六四	昭和39	3/3~22	朝日座	艷容女舞衣	酒屋の段(土佐  吉兵衛・琴清治)。 ※文五郎事吉田難波掾追善。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(養助)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁お園(紋十郎)、親宗岸(玉市)。
一九六四	昭和39	1/22~27	地方公演 (山陽)	(艷容女舞衣)	酒屋。 ※『文楽 協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	(不明)

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六四	昭和39	12/13	神戸 国際会館	艷容女舞衣	酒屋の段(春子  吉兵衛・琴寛弘)。 ※神戸労音公演。	三勝(文雀)、半七(玉男)、 半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房 (国秀)、お園(紋十郎)、宗岸 (玉市)。
一九六五	昭和40	2/7~21	朝日 座	艷容女舞衣	酒屋の段(若  勝太郎・琴勝之輔)。 ※角書「三勝/半七」。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七 (襄助)、舅半兵衛(辰五郎)、 半兵衛女房(国秀)、嫁お園 (紋十郎)、親宗岸(玉市)。
一九六五	昭和40	6/29~7/11	東京 三越 劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(春子  松之輔・琴勝之輔)。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七 (清十郎)、舅半兵衛(辰五 郎)、半兵衛女房(常次)、娘 お園(紋十郎)、親宗岸(亀 松)。
一九六五	昭和40	9/2~14	地方公演 (北陸・信越)	艷容女舞衣	酒屋の段(つばめ  喜左衛門・勝平)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して―文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七 (襄助)、舅半兵衛(玉昇)、半 兵衛女房(国秀)、嫁おその (紋十郎)、親宗岸(玉男)。
一九六五	昭和40	10/22~24	京都 祇園 会館	艷容女舞衣	酒屋の段(若  勝太郎・勝之輔)。	美濃屋三勝(小玉)、茜屋半七 (紋寿)、舅半兵衛(国秀)、半 兵衛女房(常次)、嫁おその (紋十郎)、親宗岸(辰五郎)。



「艷容女舞衣」(上演年表)

一九六七	昭和42	11/5~19	地方公演 (中国・九州)	艷容女舞衣	酒屋の段(土佐  吉兵衛・高音・清治)。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(二暢)、舅半兵衛(勘十郎)、半兵衛女房(国秀)、娘お園(紋十郎)、親宗岸(玉男)。
一九六七	昭和42	11/2	尼崎 尼崎文化会館	艷容女舞衣	酒屋の段(三味線・源平)。 ※文楽人形浄瑠璃大会。語りは尼崎太十会による。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(二暢)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(亀松)。
一九六七	昭和42	5/27~28	名古屋 中日劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(つばめ改め・越路  喜左衛門・勝平)。 ※豊竹つばめ大夫改め四世竹本越路大夫襲名披露。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(二暢)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁お園(紋十郎)、親宗岸(玉男)。
一九六七	昭和42	2/22	東京 三越劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(越路  喜左衛門)。 ※豊竹若大夫を慰める素浄るりの会。	
一九六七	昭和42	1/23~24	朝日座	艷容女舞衣	酒屋の段(中小春  勝之輔、文字/織  清治)。 ※復活第一回文楽人形浄瑠璃若手向上会。	美濃屋三勝(勘寿)、茜屋半七(福丸)、舅半兵衛(文雀)、半兵衛女房(玉昇)、嫁おその(文昇)、親宗岸(箕助)。
一九六七	昭和42	1/8~22	朝日座	艷容女舞衣	酒屋の段(中文字  徳太郎、切つばめ改め越路  喜左衛門・高音・勝之輔)。 ※豊竹つばめ大夫改め四世竹本越路大夫襲名披露狂言。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(紋弥)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(玉男)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九六七	昭和42	11/13	福岡 明治生命ホ ル	艷容女舞衣	酒屋の段(土佐  吉兵衛・高音 清治)。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(一暢)、舅半兵衛(勘十郎)、半兵衛女房(国秀)、娘お園(紋十郎)、親宗岸(玉男)。
一九六八	昭和43	9/6~8	京都 ヤサカ会館	艷容女舞衣	酒屋の段(越路  喜左衛門・高音 団二郎)。 ※日程は『文楽興行記録昭和篇』に拠る。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(紋弥)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(玉五郎)、娘お園(紋十郎)、親宗岸(亀松)。
一九六九	昭和44	4/20~5/5	朝 日 座	艷容女舞衣	酒屋の段(呂  勝平、春子  勝太郎・高音 勝之輔)、道行霜夜の千日(三勝  嶋・半七  松香・ツレ 英  叶太郎・勝平・勝之輔)。 ※角書「三勝  半七」。 ※豊竹若大夫三回忌追善狂言。 ※野沢松之輔  改訂・作曲、沢村龍之介  振付、大塚克三  装置(道行霜夜の千日)。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(辰五郎)、半兵衛女房(国秀、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(亀松))。
一九六九	昭和44	6/11~26	地方公演 (北陸・関東・ 東海)	艷容女舞衣	酒屋の段(伊達路  勝平、文字  重造・高音 仙次郎)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(玉幸)、舅半兵衛(玉昇)、半兵衛女房(常次、娘お園(紋十郎)、親宗岸(辰五郎))。
一九六九	昭和44	9/5~6	地方公演 (豊岡・篠山)	艷容女舞衣	酒屋の段(文字  勝太郎・高音 団二郎)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して』文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(小玉)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(勘十郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

一九七三	昭和48	2/27~3/15	地方公演 (東海・関東)	艷容女舞衣	酒屋の段(越路  吉兵衛)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して―文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(和生)、茜屋半七(玉女)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(小玉)、嫁おその(栄三)、親宗岸(辰五郎)。
一九七二	昭和47	11/12~19	東京 国立劇場 小劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(織  喜左衛門)。 ※竹本織太夫休演のため、「酒屋の段」を竹本文字太夫が代演。	美濃屋三勝(勘寿)、茜屋半七(和生)、茜屋半兵衛(玉幸)、茜屋女房(勘十郎)、嫁お園(寶助)、舅宗岸(作十郎)。
一九七二	昭和47	6/3~5	京都 京都府立文化 芸術会館	艷容女舞衣	酒屋の段(嶋  叶太郎、南部  吉兵衛)。	美濃屋三勝(文昇、茜屋半七(小玉)、舅半兵衛(勘十郎)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁おその(龜松)、親宗岸(辰五郎)。
一九七二	昭和47	1/2~21	朝 日 座	艷容女舞衣	酒屋の段(相生  清治、南部  松之輔)、道行霜夜の千日(三勝  嶋・半七  松香・ツレ緑  道八・団六・清治)。 ※野沢松之輔  改訂・作曲、沢村龍之介  振付、大塚克三  装置(道行霜夜の千日)。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(栄三)、親宗岸(辰五郎)。
一九七〇	昭和45	2/8~22	東京 国立劇場 小劇場	艷容女舞衣	上塩町酒屋の段(中相子  団六、切相生  重造)。 ※桐竹紋十郎文化功労者選定記念狂言。	美濃屋三勝(寶助)、茜屋半七(紋弥)、舅半兵衛(清十郎)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁お園(紋十郎)、親宗岸(勘十郎)。
一九六九	昭和44	10/14~18	地方公演 (四国)	艷容女舞衣	酒屋の段(文字  勝太郎・高音  団二郎)。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して―文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(文昇、茜屋半七(小玉)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁おその(紋十郎)、親宗岸(勘十郎)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七三	昭和48	4/5~17	地方公演 (中国・九州)	艷容女舞衣	酒屋の段(越路  吉兵衛。 ※日程は『文楽 協会創立二十五周年を記念して―文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(和生)、茜屋半七(玉女)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(小玉)、嫁おその(栄三)、親宗岸(辰五郎)。
一九七三	昭和48	10/24	兵庫 芦屋市民会館 ルナ・ホール	艷容女舞衣	酒屋の段(南部  道八・高音清友。 ※近松門左衛門没後二五〇周年記念。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(襄助)、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(小玉)、嫁おその(亀松)、親宗岸(勘十郎)。
一九七四	昭和49	5/16~18	京都 京都府立文化 芸術会館	艷容女舞衣	酒屋の段(織  吉兵衛・高音清友)。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁おその(清十郎)、親宗岸(勘十郎)。
一九七四	昭和49	7/17~30	朝日座	艷容女舞衣	長町美濃屋の段(南部  松之輔)、酒屋の段(呂  重造、越路  喜左衛門)、道行霜夜の千日(三勝  嶋・半七  津駒・ツレ、南司  武蔵  叶太郎・団六・清友・清介・浅造  喜久三郎  松也)。 ※角書「三勝  半七」。 ※渡欧公演帰朝記念。 ※大塚克三  装置(「長町美濃屋の段」「女舞剣紅楓」より)。野沢松之輔  改訂・作曲、沢村龍之介  振付、大塚克三  装置(「道行霜夜の千日」)。	美濃屋三勝(文雀)、茜屋半七(文昇)、舅半兵衛(清十郎)、半兵衛女房(国秀、嫁おその(亀松)、親宗岸(勘十郎))。

一九七四	昭和49	9/29	仙台 電力ホール	艶容女舞衣	酒屋の段(南部  道八・琴松也)、道行霜夜の千日(三勝  嶋・半七  松香・ツレ緑  勝平・団二郎・勝之輔)。 ※野沢松之輔  改訂・作曲、沢村龍之介  振付、大塚克三  装置(道行霜夜の千日)。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(文昇、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(紋寿)、嫁おその(清十郎)、親宗岸(勘十郎))。
一九七四	昭和49	12/6~7	名古屋 中日劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(呂  道八、越路  喜左衛門)。	美濃屋三勝(文昇、茜屋半七(小玉)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(紋寿、娘おその(亀松)、親宗岸(勘十郎))。
一九七五	昭和50	5/10~24	東京 国立劇場 小劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(中小松  重造、切越路  喜左衛門)、道行霜夜の千日(三勝  嶋・半七  相生・三輪/貴  叶太郎・勝平・勝司・寛平)。 ※野沢松之輔  改訂・作曲、沢村龍之介  振付、大塚克三  装置(道行霜夜の千日)。	美濃屋三勝(文雀、茜屋半七(文昇)、茜屋半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(国秀)、嫁おその(清十郎)、親宗岸(勘十郎))。
一九七五	昭和50	11/9~11	地方公演 (近畿)	艶容女舞衣	酒屋(南部  吉兵衛)。 ※『演劇界』(昭和50年12月号)に拠る。	(不明)
一九七七	昭和52	2/5~19	東京 国立劇場 小劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(中呂  勝平、奥南部  重造)。	美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(小玉)、茜屋半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(玉松)、嫁おその(養助)、親宗岸(作十郎))。
一九七七	昭和52	3/5~29	地方公演 (関東・北陸・ 東海・近畿・ 中国)	艶容女舞衣	酒屋の段(文字  道八)。 ※日程は『文楽協会創立二十五周年を記念して―文楽協会』に拠る。	美濃屋三勝(二嶋、茜屋半七(和生)、舅半兵衛(玉松)、半兵衛女房(作十郎)、嫁おその(亀松)、親宗岸(玉昇))。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九七九	昭和54	7/7~22	朝日座	艷容女舞衣	酒屋の段(相生  勝司、南部  燕三)、道行霜夜の千日(三勝  嶋、半七  英・ツレ文字登・千歳  津梅  団二郎・弥三郎・燕太郎・燕二郎)。 ※角書「三勝  半七」。 ※野沢松之輔  改訂・作曲、沢村龍之介  振付、大塚克三  装置(道行霜夜の千日)。	美濃屋三勝(文昇)、茜屋半七(一暢)、舅半兵衛(玉松)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁おその(文雀)、親宗岸(作十郎)。
一九八〇	昭和55	9/24	東京国立劇場小劇場	艷容女舞衣	下の巻 酒屋の段(呂  清治・琴清介)。 ※第4回花光会。	
一九八〇	昭和55	10/5	横浜横濱市教育文化ホール	艷容女舞衣	酒屋の段(文字  勝平)。 ※角書「三勝  半七」。 ※第18回横浜文楽教室、第1回自主公演。 ※『横浜文楽同好会会報』第5号に拠る。	美濃屋三勝(玉英)、茜屋半七(玉輝)、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(紋寿)、嫁おその(養助)、親宗岸(文昇)。
一九八一	昭和56	11/12~29	地方公演(北海道・東北・関東・東海)	艷容女舞衣	酒屋の段(切文字  勝平)。	美濃屋三勝(玉英)、茜屋半七(玉輝)、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(紋寿)、嫁おその(養助)、親宗岸(文昇)。
一九八一	昭和56	11/30	泉佐野市民会館	艷容女舞衣	酒屋の段(文字  勝平)。 ※大阪府民劇場。	美濃屋三勝(玉英)、茜屋半七(玉輝)、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(紋寿)、嫁おその(養助)、親宗岸(文昇)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

△		△		△	
一九八四	昭和59	12/8	横浜 横浜市教育文化ホール	艷容女舞衣	酒屋の段(越路  清治・高音清一郎)。 ※横浜文楽同好会主催「素浄瑠璃を聴く会」。 ※『横浜文楽同好会会報』第12・19号に抛る。
一九八三	昭和58	10/14~30	朝日座	艷容女舞衣	酒屋の段(中相生  清友、切文字  勝平)。
一九八三	昭和58	9/10	東京 銀座ラ・ポロン	(艷容女舞衣)	酒屋(津  団七)。 ※花暦銀座邦楽名人会。 ※『文楽』第2号に抛る。
一九八三	昭和58	9/3~18	東京 国立劇場 小劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中 小松  浅造、切文字  勝平)。
一九八二	昭和57	6/25~28	京都 京都府立文化芸術会館	艷容女舞衣	酒屋の段(中 呂  錦弥、織  燕三)。
一九八二	昭和57	3/10~28	地方公演 (東北・関東・九州・四国・近畿)	艷容女舞衣	酒屋の段(切文字  勝平、後嶋  清介)。
				美濃屋三勝(和生)、茜屋半七(勘寿)、舅半兵衛(玉松)、半兵衛女房(作十郎)、嫁おその(玉男)、親宗岸(文雀)。	
				美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(小玉改め 文吾)、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁おその(文雀)、親宗岸(文昇)。	
				美濃屋三勝(紋寿)、茜屋半七(玉女)、舅半兵衛(玉松)、半兵衛女房(二暢)、嫁お園(文雀)、親宗岸(作十郎)。	

「艷容女舞衣」(上演年表)

△

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九八七	昭和62	1/3~25	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中英  燕二郎、切越路  清治)。 ※竹本越路太夫3~6日休演のため、「酒屋の段・切」を豊竹嶋太夫が代演。	美濃屋三勝(和生)、茜屋半七(文吾)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁お園(簀助)、親宗岸(玉男)。
一九八七	昭和62	3/6~22	西ドイツ	艷容女舞衣	酒屋の段。 ※ドイツ文楽教室ツアー(ドイツ人形演劇研究所主催)。 ※『文楽』第6号に拠る。	
一九八七	昭和62	9/12~27	東京国立劇場 小劇場	艷容女舞衣	上塩町酒屋の段(中英  燕二郎、切越路  清治)。	美濃屋三勝(勘寿)、茜屋半七(簀太郎)、舅半兵衛(玉松)、半兵衛女房(文昇)、嫁お園(簀助)、親宗岸(作十郎)。
一九九〇	平成2	1/27	京都南座	艷容女舞衣	酒屋の段(織  清治・高音清二郎)。 ※竹本織大夫・春日とよ子の会、素浄瑠璃。	
一九九一	平成3	4/6~25	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中緑  弥三郎、切住  燕三)。	美濃屋三勝(清之助)、茜屋半七(和生)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(玉五郎)、嫁お園(簀助)、親宗岸(玉松)。
一九九二	平成4	5/9~24	東京国立劇場 小劇場	艷容女舞衣	上塩町酒屋の段(中千歳  清二郎、切住  燕三)。	美濃屋三勝(和生)、茜屋半七(玉女)、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(紋寿)、嫁お園(簀助)、親宗岸(作十郎)。



「艷容女舞衣」(上演年表)

一九九五	平成7	11/4~26	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中千歳  燕二郎、切嶋  富助・高音清太郎)。	美濃屋三勝(清之助)、茜屋半七(玉女)、舅半兵衛(文吾)、半兵衛女房(勘寿)、嫁お園(箕助)、親宗岸(作十郎)。
一九九六	平成8	4/29~30	愛媛 内子座	艷容女舞衣	酒屋の段(切嶋  燕二郎)。 ※第2回内子座文楽。	美濃屋三勝(清之助)、茜屋半七(文司)、舅半兵衛(二暢)、半兵衛女房(玉也)、嫁お園(箕助)、親宗岸(文吾)。
一九九六	平成8	12/2	東京 国立演芸場	艷容女舞衣	酒屋の段(津駒  清友)。 ※若手素浄瑠璃の会。	
一九九七	平成9	1/27	T. B. ホール	艷容女舞衣	酒屋の段(切嶋  清介)。	美濃屋三勝(亀次)、茜屋半七(勘緑/玉志)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(勘寿)、嫁おその(文雀)、親宗岸(文吾)。
一九九七	平成9	9/28~10/16	地方公演 (中部・東海・ 関東・北海道 ・東北)	艷容女舞衣	酒屋の段(切嶋  清介)。 ※文化庁主催移動芸術祭。	美濃屋三勝(亀次)、茜屋半七(玉志)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(勘寿)、嫁おその(文雀)、親宗岸(文吾)。
一九九七	平成9	10/18~22	地方公演 (関東・信越・ 東海)	艷容女舞衣	酒屋の段(切嶋  清介)。 ※文化庁主催移動芸術祭。	美濃屋三勝(亀次)、茜屋半七(玉志)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(勘寿)、嫁おその(文雀)、親宗岸(文吾)。

「艶容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
一九九八	平成10	3/3~24	地方公演 (近畿・中国・九州・四国・東海・関東・北陸)	艶容女舞衣	酒屋の段(呂  富助)。	美濃屋三勝(勘弥)、茜屋半七(幸助)、舅半兵衛(文吾/一暢)、半兵衛女房(文司/玉英)、嫁おその(文雀)、親宗岸(玉幸)。
一九九九	平成11	9/4~19	東京 国立劇場 小劇場	艶容女舞衣	上塩町酒屋の段(中 南都  八介、切嶋  団六)。	美濃屋三勝(清之助)、茜屋半七(一暢)、舅半兵衛(作十郎)、半兵衛女房(紋寿)、嫁お園(簗助)、親宗岸(文吾)。
二〇〇〇	平成12	3/25	国立文楽劇場 小ホール	艶容女舞衣	酒屋の段(英  清友)。 ※若手素浄瑠璃公演「雅会」。	美濃屋三勝(清之助)、茜屋半七(玉輝)、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(勘寿)、嫁お園(簗助)、親宗岸(文雀)。
二〇〇〇	平成12	4/1~23	国立文楽劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(中 千歳  宗助、切綱  清二郎)。 ※文化財保護法50年記念。	美濃屋三勝(清之助)、茜屋半七(玉輝)、舅半兵衛(玉幸)、半兵衛女房(勘寿)、嫁お園(簗助)、親宗岸(文雀)。
二〇〇二	平成14	10/26	東京 国立劇場 小劇場	艶容女舞衣	上塩町酒屋の段(切住  錦糸・高音 清丈)。 ※第14回文楽素浄瑠璃の会(第12回邦楽公演)。	美濃屋三勝(清三郎)、茜屋半七(玉女)、舅半兵衛(玉也)、半兵衛女房(紋豊)、嫁お園(文雀)、親宗岸(文吾)。
二〇〇四	平成16	10/2~21	地方公演 (関東・東北・北陸・中京・山陽)	艶容女舞衣	酒屋の段(中 松香  清志郎、切嶋  清介)。	美濃屋三勝(清三郎)、茜屋半七(玉女)、舅半兵衛(玉也)、半兵衛女房(紋豊)、嫁お園(文雀)、親宗岸(文吾)。

二〇〇五	平成17	3/5~24	地方公演 (中国・九州・ 近畿・東海・ 関東・北陸)	艷容女舞衣	酒屋の段(中陸  清丈、切嶋  清介)。	美濃屋三勝(勘弥)、茜屋半七(簀一郎)、舅半兵衛(玉輝)、半兵衛女房(紋豊)、嫁お園(簀助)、親宗岸(玉女)。
二〇〇五	平成17	4/2~24	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中英  宗助、切綱  清二郎)、道行霜夜の千日(三勝  津駒・半七  呂勢・ツレ、咲甫・相子・呂茂  団七・団吾・喜一朗・龍串・龍爾)。 ※野沢松之輔  改訂・作曲、沢村龍之介  振付(「道行霜夜の千日」)。	美濃屋三勝(清之助)、茜屋半七(玉女)、舅半兵衛(玉也)、半兵衛女房(紋豊)、嫁お園(文雀)、親宗岸(文吾)。
二〇〇五	平成17	6/30	東京 紀尾井ホール	艷容女舞衣	酒屋(切住  錦糸・高音清丈)。 ※「住大夫三夜」。素浄瑠璃。 ※竹本住大夫『文楽のこころを語る』(文庫版)に拠る。	
二〇〇六	平成18	5/12~28	東京 国立劇場 小劇場	艷容女舞衣	上塩町酒屋の段(中文字久  宗助、切綱  清二郎)。 ※吉田文吾休演のため、親宗岸を吉田和生が代演。	美濃屋三勝(簀一郎)、茜屋半七(幸助)、舅半兵衛(玉輝)、半兵衛女房(玉英)、嫁お園(文雀)、親宗岸(文吾)。
二〇〇七	平成19	7/7	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(住  錦糸・高音龍爾)。 ※第10回文楽素浄瑠璃の会(文楽劇場第29回邦楽公演)。	
二〇〇七	平成19	11/3~25	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中呂勢  喜一朗、切嶋  宗助)。 ※吉田文吾休演のため、親宗岸を桐竹勘十郎が代演。	美濃屋三勝(清之助)、茜屋半七(清五郎)、舅半兵衛(玉輝)、半兵衛女房(紋豊)、嫁お園(簀助)、親宗岸(文吾)。

「艷容女舞衣」(上演年表)

西暦	年	月	劇場	上演外題	場割・備考	主な人形役割
二〇〇八	平成20	11/27	神戸 神戸新聞松方 ホール	艷容女舞衣	酒屋の段(切住  錦糸)。 ※神戸新聞創刊110周年記念。	美濃屋三勝(勘弥)、茜屋半七(一輔)、舅半兵衛(玉也)、半兵衛女房(簀二郎)、嫁お園(文雀)、親宗岸(和生)。
二〇〇九	平成21	9/5~23	東京 国立劇場 小劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中英  団七、切嶋  清友)。	美濃屋三勝(清三郎)、茜屋半七(一輔)、舅半兵衛(玉輝)、半兵衛女房(勘寿)、嫁お園(文雀)、親宗岸(玉女)。
二〇一一	平成23	4/2~24	国立文楽劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中文字久  喜一朗、前千歳  宗助、後津駒  寛治、道行霜夜の千日(三勝  文字久・半七  咲甫・ツレつばざ・希・小住  富助・清麩・清丈・清公・錦吾)。 ※野沢松之輔  改訂・作曲、沢村龍之介  振付(「道行霜夜の千日」)。 ※吉田文雀19~24日休演のため、嫁お園を吉田和生が代演。	美濃屋三勝(簀二郎)、茜屋半七(勘弥)、舅半兵衛(玉輝)、半兵衛女房(亀次)、嫁お園(文雀)、親宗岸(玉也)。
二〇一二	平成24	5/12~28	東京 国立劇場 小劇場	艷容女舞衣	酒屋の段(中松香  清友、切嶋  富助、切源  藤蔵)。	美濃屋三勝(紋臣)、茜屋半七(勘市/玉佳)、舅半兵衛(玉也)、半兵衛女房(勘寿)、嫁お園(簀助)、親宗岸(紋寿)。

二〇二二	平成24	12/22~23	福岡 博多座	艶容女舞衣	酒屋の段(前英  清介、後呂勢  藤蔵)。	美濃屋三勝(文昇、茜屋半七(幸助)、舅半兵衛(玉輝)、半兵衛女房(簀二郎)、嫁お園(和生)、親宗岸(玉也)。
二〇二三	平成25	5/1	東京 高輪区民センター ター区民ホール	艶容女舞衣	酒屋の段(千歳  燕三)。 ※素浄瑠璃の会。	
二〇二六	平成28	10/29~11/20	国立文楽劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(中希  清丈、前文字久  宗助、奥津駒  寛治)。 ※国立劇場開場50周年記念。	美濃屋三勝(簀助、茜屋半七(勘弥)、舅半兵衛(文司)、半兵衛女房(簀二郎)、嫁お園(勘十郎)、親宗岸(勘寿)。
二〇一九	令和1	9/7~23	東京 国立劇場 小劇場	艶容女舞衣	酒屋の段(中靖  錦糸、前藤  清友、奥津駒  藤蔵)、道行霜夜の千日(三勝  睦・半七  南都・ツレ咲寿・碩・文字栄  勝平・清禰・友之助・清公・清允)。 ※野沢松之輔  改訂・作曲、沢村龍之介  振付(「道行霜夜の千日」)。	美濃屋三勝(二輔、茜屋半七(玉助)、舅半兵衛(玉志)、半兵衛女房(簀一郎)、嫁お園(清十郎)、親宗岸(玉也)。

「艶容女舞衣」(上演年表)